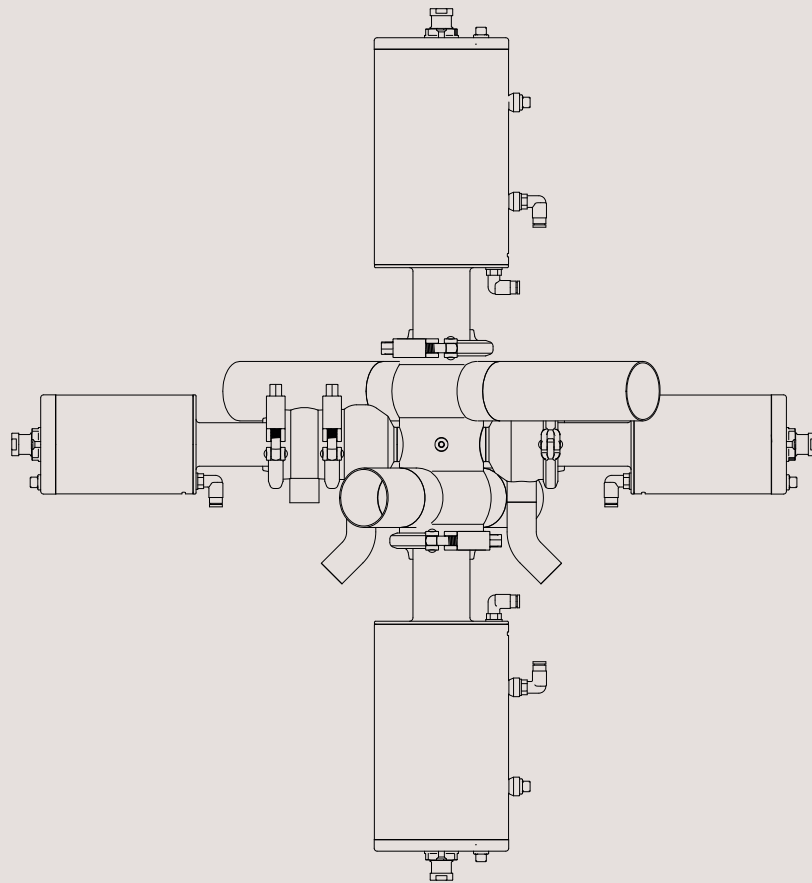




取扱説明書

無菌ミックスプルーフバルブ



100000827-JA1 2018-10

オリジナルの使用説明書の翻訳

www.alfalaval.jpへアクセスしてください。

1. EC適合宣言書	4
2. 安全	5
2.1. 重要事項	5
2.2. 警告を表すマーク	5
2.3. 安全に関する注意事項	6
3. 据付け	8
3.1. 開梱/搬送	8
3.2. 通常の据付け	11
3.3. 溶接	13
3.4. リサイクル情報	15
4. 動作概要	16
4.1. 動作概要	16
4.2. トラブル・シューティング	18
4.3. 推奨する洗浄方法	19
5. メンテナンス	26
5.1. 通常のメンテナンス	26
5.2. シャットオフバルブを解体します	28
5.3. b. 切替バルブを分解します	31
5.4. プラグシールの交換	39
5.5. シャットオフバルブの組立	42
5.6. 切り替えバルブの組立	46
5.7. 完全保守可能なアクチュエータの解体	57
5.8. 完全保守アクチュエータのマウント	58
5.9. 完全保守アクチュエータ(NC/NO)に対する圧縮空気作動の変更	59
6. テクニカルデータ	60
6.1. テクニカルデータ	60

1 EC適合宣言書

指定会社

Alfa Laval Kolding A/S
会社名

デンマーク、コリング市Albuen 31, DK-6000
住所

+45 79 32 22 00
電話番号

上記会社はここに次のとおり宣言します。

バルブ
名称

無菌ミックスプルーフ PN8
タイプ

シリアル番号 AMV 000001まで

が、以下の指令に修正を含めて準拠していることを、ここに宣言いたします。

- 機械指令 2006/42/EC
- 圧力装置指令2014//EU カテゴリ 及び対象評価手順モジュール A。グループ2の液体しか使用できない

当該技術ファイルを編集する権限を与えられているのは、本ドキュメントの署名者です。

グローバル製品品質マネージャー
ポンプ、バルブ、継手とタンク設備
役職

Lars Kruse Andersen
名称

Kolding
場所

2018年10月11日
日付

署名



本文中では、危険な行為などの重要な情報を、特に強調して記してあります。
警告内容は、特別なマークで強調しています。

2.1 重要事項

バルブをご使用の前に**必ず**この取扱説明書をお読みください。

警告

人体への被害を防ぐために、遵守すべき事柄を表しています。

注意

バルブの損傷を防ぐために従うべき事柄を表しています。

注意

手順を簡素化あるいは明瞭化するための重要な情報を表しています。

2.2 警告を表すマーク

一般的警告



腐食剤



2 安全

本文中では、危険な行為などの重要な情報を、特に強調して記してあります。
特別な記号で警告を強調します。
重傷を負ったり、バルブが損傷したりしないように、以下の指示を特に注意してください。

2.3 安全に関する注意事項

アクチュエータ

サポートエアが利用された場合：



アクチュエータ内で**決して**衝撃が発生してはいけません。

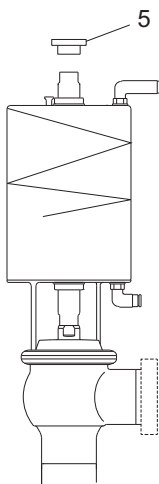
アクチュエータ内の衝撃の防止、また8 バールの製品圧力を超えないようにするため、アルファ Laval はアクチュエータにおいて、スプリング側では3バールのサポートエアを**超えない**ことを要求します。

「3 バールの吸排気装置」= 9611995903を利用すること

「3 バールの吸排気装置」の使用もアクチュエータピストンリングの耐用年数を延長させます。

サポートエアが接続された場合、以下のように操作してください。

- **必ず** 締めトルク 30 Nmに相当の鋼アダプター(位置 5) = 9614065301
を利用する。
- **必ず** 3 バールの吸排気装置 = 9611995903を利用する



Alfa Laval が最大
barのサポートエアを勧めます。必ずサポートエアには「3 bar
の吸排気装置」を利用してください。
Alfa Laval 商品番号 = 9611995903

TD 461-990_2

本文中では、危険な行為などの重要な情報を、特に強調して記してあります。
特別な記号で警告を強調します。
重傷を負ったり、バルブが損傷したりしないように、以下の指示を特に注意してください。

据付け

必ず、技術資料に目を通してください(セクション6.1 テクニカルデータ参照)。
バルブ使用後は、**必ず**圧縮エアを抜いてください。
アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は**絶対に**可動部品に手を触れないでください。
熱い流体を流している最中や殺菌中には、バルブや配管には**決して**手を触れないでください。
バルブを取外す時は、配管/バルブ共に加圧されていないことを**必ず**確認してください。
バルブが熱くなっているときには、**絶対に**取外さないでください。



スプリング負荷不足(同警告がマークされた場合)の可能性があるので、**必ず**アクチュエータを切り開かないでください。



スプリング負荷不足の危険性があるので、アクチュエータを解体してはいけません！



動作概要

バルブを取外す時は、配管/バルブ共に加圧されていないことを**必ず**確認してください。
バルブが熱くなっているときには、**絶対に**取外さないでください。
必ず、技術資料に目を通してください(セクション6.1 テクニカルデータ参照)。
バルブ使用後は、**必ず**圧縮エアを抜いてください。
熱い流体を流している最中や殺菌中には、バルブや配管には**決して**手を触れないでください。
アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は**絶対に**可動部品に手を触れないでください。
洗浄後はきれいな水で**必ず**よく水洗いしてください。



酸やアルカリの取扱いには十分な注意を怠らないようにしてください。



メンテナンス

必ず、技術資料に目を通してください(セクション6.1 テクニカルデータ参照)。
バルブ使用後は、**必ず**圧縮エアを抜いてください。
バルブが熱くなっているときには、**絶対に**作業を行わないでください。
バルブおよび配管が加圧されている場合は、**絶対に**作業を行わないでください。
アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は**絶対に**バルブ内に指を入れないでください。
アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は**絶対に**可動部品に手を触れないでください。
必ず、アルファ Laval純正予備部品を使用してください。



スプリング負荷不足(同警告がマークされた場合)の危険性があるので、**必ず**アクチュエータを切り開かないでください。



スプリング負荷不足の危険性があるので、アクチュエータを解体してはいけません！



輸送:

圧縮エアが放出されていることを**必ず**確認してください。
バルブを取り外す前に、**必ず**全ての接続が切断されていることを確認してください。
輸送前には、**必ず**液体をバルブの外に排出してください。
明示されている場合は**必ず**、指定の吊り下げポイントを使用してください。
輸送時には**必ず**、バルブが適切に固定されていることを確認し、専用パッケージ材が利用可能な場合は**必ず**使用してください。

3 据付け

本製品には取扱説明書が付属しています。説明書をよく読んでください。
バルブは標準の別部品として供給されます(溶接用)。

3.1 開梱/搬送

ステップ 1

注意

アルファ・ラバルでは、不適切な開梱による不具合には責任を負いかねます。

内容を確認して下さい:

1. バルブ完成品
2. パッキングリスト
3. 警告ラベル

ステップ 2

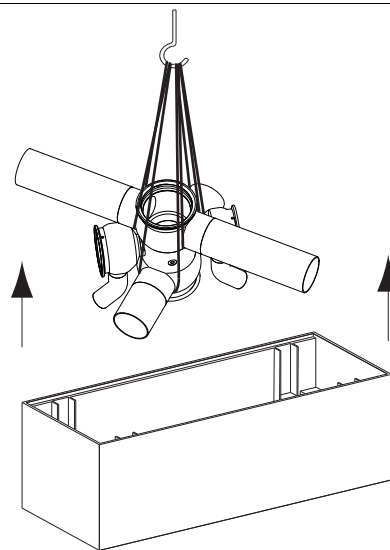
輸送用ストリップを取り外します。

ステップ 3

バルブを持ち上げます。

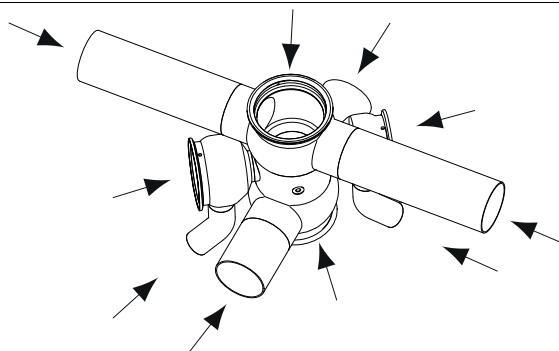
注意!

箱に印刷されたバルブの重量を注意してください。



ステップ 4

バルブ部品の梱包材を取り除いてください。



ステップ 5



注意

Alfa Lavalは、不適切なインストールによる不具合に責任を負いかねます。

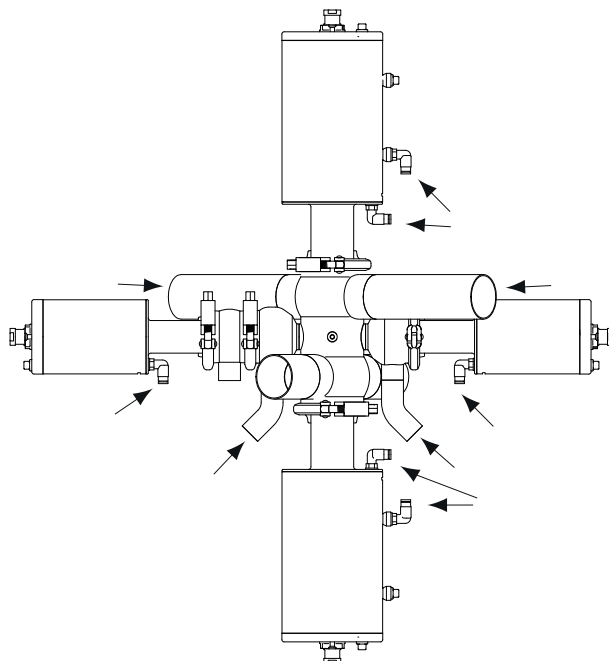
1. バルブ一式、ストップバルブまたは切り替えバルブ。
2. デリバリーノート

3 据付け

本製品には取扱説明書が付属しています。説明書をよく読んでください。
バルブは標準の別部品として供給されます(溶接用)。

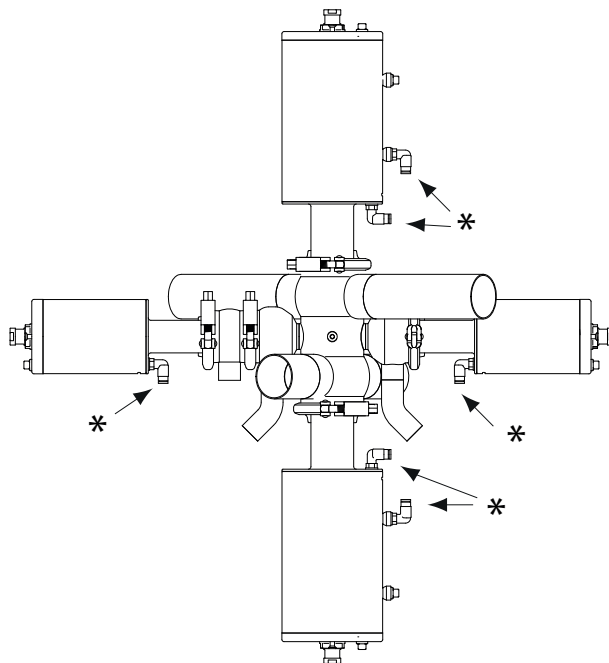
ステップ 6

輸送による破損が無いかわり視認検査してください。



ステップ 7

エア接続部*、漏れ口、バルブポートおよび CIP 接続部が損傷しないようにしてください。



3 据付け

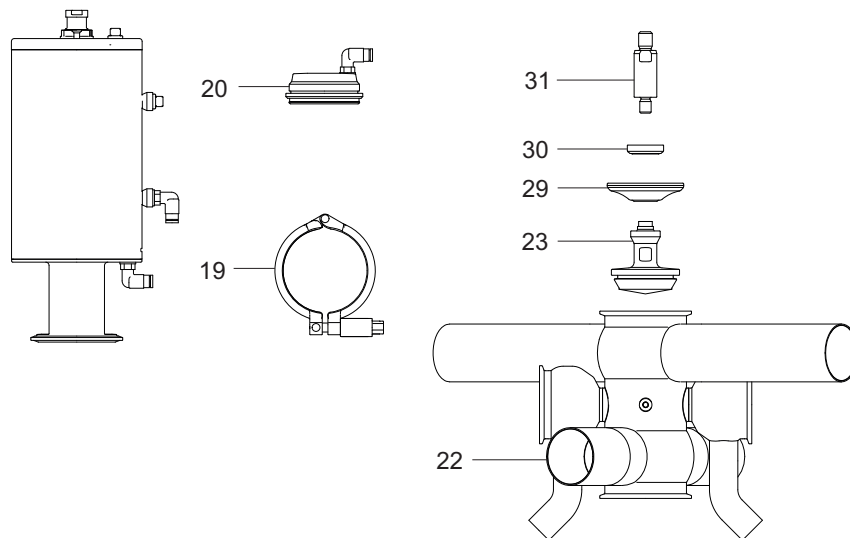
本製品には取扱説明書が付属しています。説明書をよく読んでください。
バルブは標準の別部品として供給されます(溶接用)。

ステップ 8

3a

シャットオフバルブ:

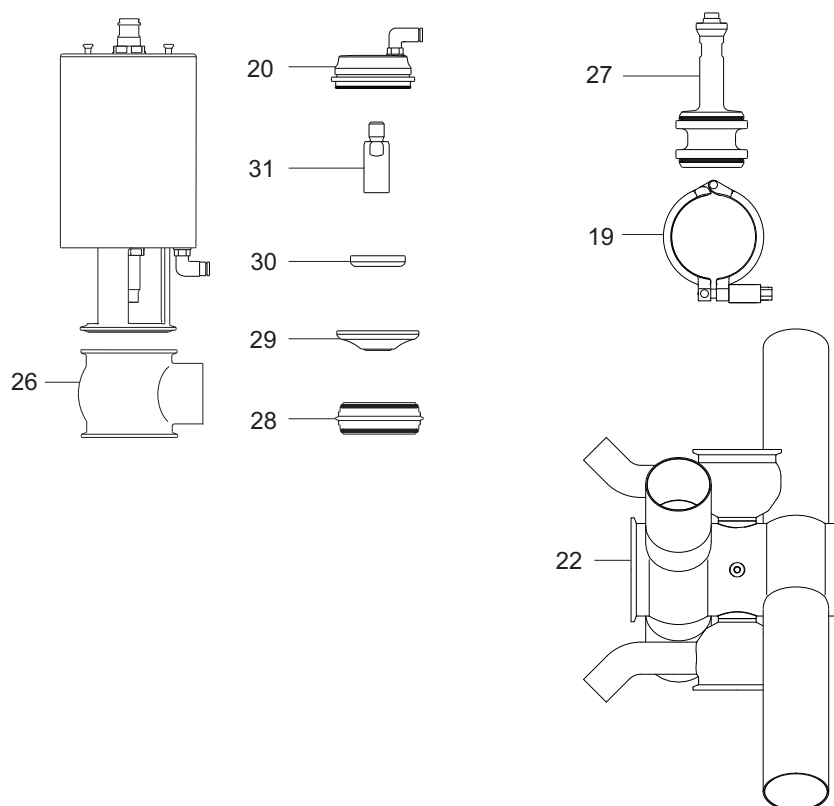
1. アクチュエータ完成品
2. ボンネット (20)。
3. クランプ (19)
4. バルブ プラグ (23)
5. バルブ ボディ (22)
6. ダイアフラム (29)
7. ダイアフラム用ディスク (30)
8. 上側スピンドル (31)



3b

切り替えバルブ

1. アクチュエータ完成品
2. ボンネット (20)。
3. 2 x クランプ (19)
4. バルブ プラグ (27)
5. 下部バルブ・ボディ (22)
6. バルブ・シート (28)
7. 上部バルブ ボディ (26)
8. ダイアフラム (29)
9. ダイアフラム用ディスク (30)
10. 上側スピンドル (31)



ステップ 9

バルブやバルブ部品から梱包材を取り除いてください。
バルブやバルブ部品の輸送による損傷がないかどうか確認して下さい。
バルブや部品の損傷を防いでください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。

3.2 通常の据付け

ステップ 1



- **注意**
Alfa Lavalは、不適切なインストールによる不具合に責任を負いかねます。
- バルブ使用後は、**必ず**圧縮エアを抜いてください。
- テクニカルデータを**必ず**よく読んでください。
セクション 6.1 テクニカルデータをご参照ください。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！

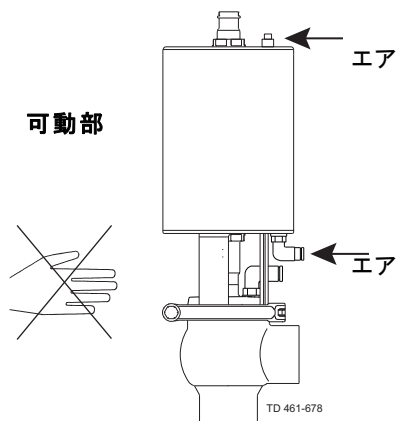


この警告メッセージがマークされた場合、スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

ステップ 2



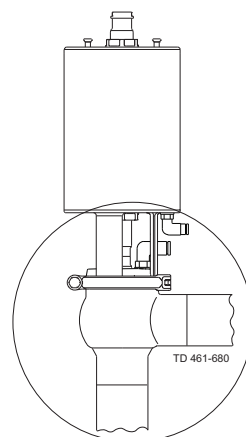
アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は**絶対**に可動部に手を触れないでください。



ステップ 3

バルブに外力を加えないで下さい。
次のことに注意してください。

- 振動
- 配管の熱膨張
- 過度の溶接
- 配管の過負荷



3 据付け

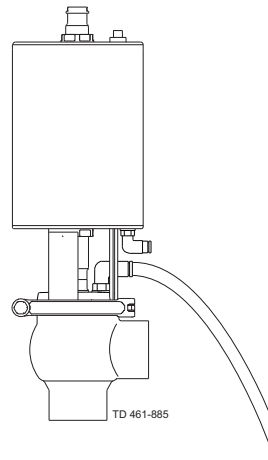
本文をよく読み、警告には特に注意してください。

ステップ 4



必ず ダイヤフラムがきついかどうか確認する - 蒸気やCIPが漏れると危険です。

ホースは、 $\phi 25/38$ mmの場合は 4 mm($1/6''$)のホース、大型タイプの場合は6 mm($1/4''$)のホースでなければなりません。



すべての危険を避けるために、ホースは放水路に着かなければなりません！

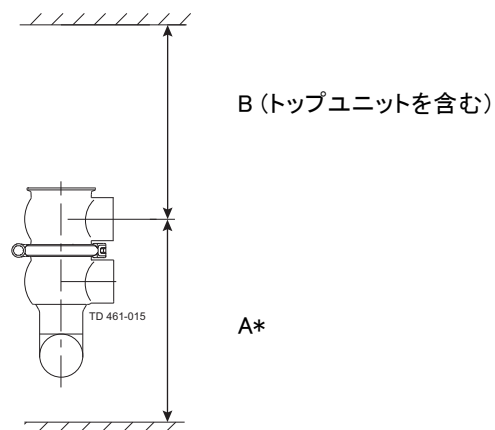
説明書をよく読んでください。
バルブは溶接を容易にするために別々の部品として供給されます。
溶接後、バルブがスムーズに作動することを確認してください。

3.3 溶接

ステップ 1

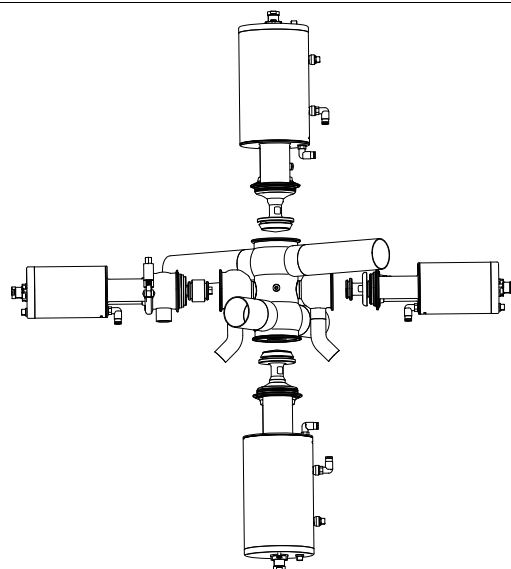
.....	A = mm	B = mm
25 mm / 1"	*	630
51 mm / 2"	*	770
63.5 mm / 2½"	*	780
76 mm / 3"	*	830

* ボディの組み合わせと配管状態による。



ステップ 2

バルブを組み立てます。
警告(人)には特に注意してください。



3 据付け

説明書をよく読んでください。

バルブは溶接を容易にするために別々の部品として供給されます。
溶接後、バルブがスムーズに作動することを確認してください。

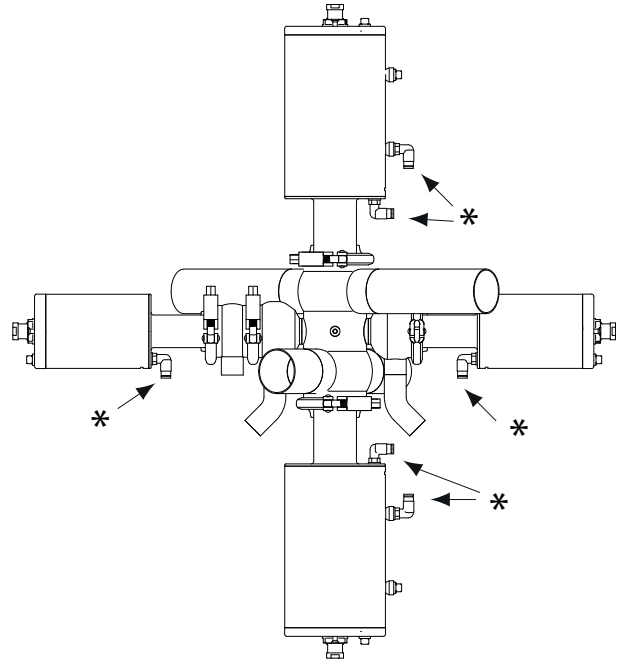
ステップ 3

使用前チェック:

1. 圧縮エアをアクチュエーターに供給します。
2. バルブの開閉を数回行い、円滑に動作する事を確認してください。

警告(人)には特に注意してください。

* = エア



3.4 リサイクル情報

梱包

- 梱包材は、木材、プラスチック、段ボール箱、および場合によっては金属ストラップから構成されています。
- 木材と段ボール箱は再利用やリサイクルが可能です。あるいは、エネルギー回収に使用できます。
- プラスチックはリサイクルするか、認可を受けた廃棄物焼却場で焼却する必要があります。
- 金属ストラップは金属リサイクルとして処理する必要があります。

メンテナンス

- メンテナンス時に、機械内のオイルや磨耗部品を交換します。
- すべての金属部品は金属のリサイクルに送る必要があります。
- 磨耗または故障した電子製品は、認可を受けた金属リサイクル処理業者に送る必要があります。
- オイルおよび金属以外の磨耗部品は、地域の法規制に従って廃棄しなければなりません。

廃棄

- 使用を終えた機器は、地域の関連する規制に従ってリサイクルする必要があります。機器以外に、プロセス液体からの有害残留物についても、適切に考慮し、処理しなければなりません。ご不明な点がある場合や、地域の法規制がない場合は、お近くのAlfa Laval販売会社にお問い合わせください。アクチュエータに危険警告がマークされている場合、同アクチュエータを切り開かないでください。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！



この警告メッセージがマークされた場合、スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

4 動作概要

本文をよく読み、警告には特に注意してください。
バルブが円滑に動作することを確認してください。

4.1 動作概要

ステップ 1



- 注意

- Alfa Lavalは、不適切なインストールによる不具合に責任を負いかねます。
- バルブ使用後は、必ず圧縮エアを抜いてください。
- テクニカルデータを必ずよく読んでください。
- セクション 6.1 テクニカルデータをご参照ください。
- 必ずアルファ Laval 純正予備部品をご利用ください。アルファ Laval 製品保証はアルファ純正予備部品の使用に依存します。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！



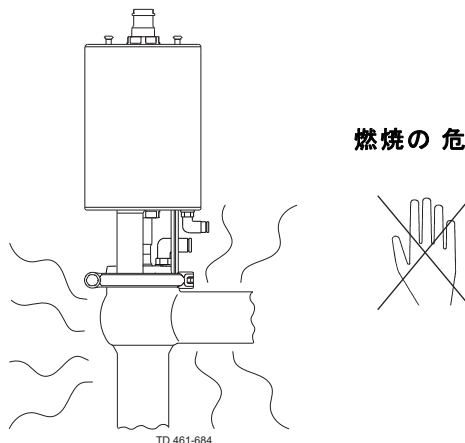
この警告メッセージがマークされた場合、スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

ステップ 2



熱い流体を流している最中や殺菌中には、バルブや配管には決して手を触れないでください。

燃焼の危険!

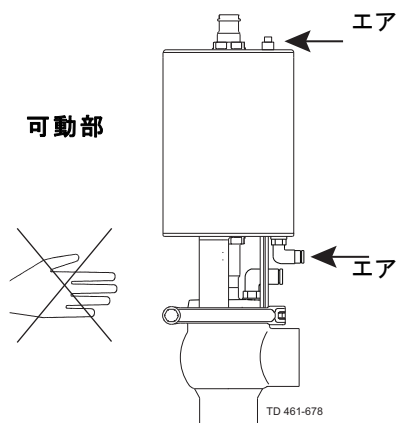


ステップ 3



アクチュエータに圧縮エアが供給されている場合は絶対に可動部品に手を触れないでください。

可動部

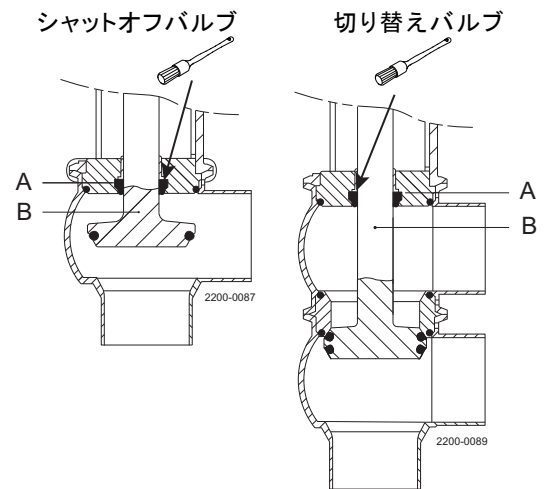


本文をよく読み、警告には特に注意してください。
バルブが円滑に動作することを確認してください。

ステップ 4

hygが装着されている場合、プラグ:

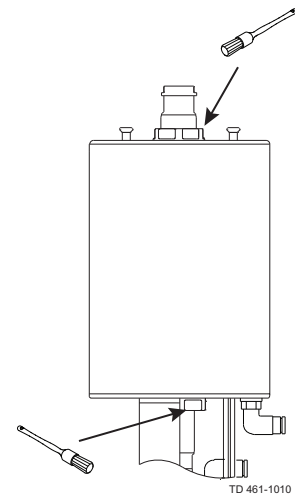
- リップ・シール(A)とプラグステム(B)の間が円滑に動作することを確認します。
- 必要に応じて Klüber Paraliq GTE 703 でリップシールを潤滑します。



ステップ 5

アクチュエータの潤滑:

- アクチュエータが円滑に動作することを確認します(アクチュエータは潤滑して納入されます。)
- 必要に応じて Molykote Longterm 2 プラスですべてのシールを潤滑します。



4 動作概要

故障の可能性に留意してください。本文をよくお読みください。

4.2 トラブル・シューティング

不具合	原因/結果	修理
外部への液漏れ	摩耗または破損したリップ シールおよび/または O-リング	<ul style="list-style-type: none"> - シールを交換 - シール材質を異なる等級のゴムに交換する
内部での液漏れ	<ul style="list-style-type: none"> - 摩耗したり製品の影響を受けたりしたプラグシール - シート、プラグへの付着物 - 通液圧力がアクチュエータの仕様を超えている 	<ul style="list-style-type: none"> - シールを交換 - シール材質を異なる等級のゴムに交換してください - 洗浄頻度を上げる - スプリング側の補助空気を使用してください (3 bar を超えないようにしてください)。アルファ Lavalアーティクルナンバー = 9611995903。 - 2.3 安全に関する注意事項 節参照 - 使用圧力を下げる
ウォーターハンマー	液の流れがバルブの閉じる方向と同一方向です	<ul style="list-style-type: none"> - 液の流れを閉じる方向と逆方向にする必要があります。 - 3.2 通常の据付け 節参照 - トップユニットの電磁弁の空気の排出を絞る
バルブが開閉しない	通液圧力がアクチュエータの仕様を超えている	<ul style="list-style-type: none"> - 使用圧力を下げる - スプリング側に補助空気を使用してください。サポートサイドにおいて、必ず圧力放出装置 (3 バール) を利用してください。 Alfa Laval 商品番号 = 9611995903

危険警告がマークされた場合、スプリング負荷不足の可能性があるので、アクチュエータを切り開いてはいけません。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
 本文をよく読み、警告には特に注意してください。
 NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
 バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

4.3 推奨する洗浄方法

ステップ 1



酸やアルカリの取扱いには、**必ず**十分注意を払ってください。

腐食の危険!



必ず
 ゴム手袋を使用してください。



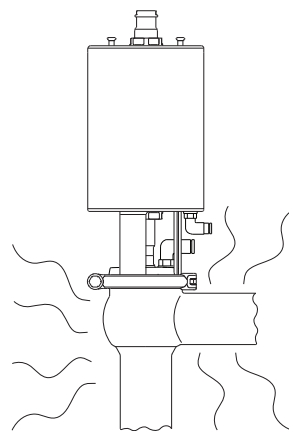
必ず
 防護眼鏡を着用してください

ステップ 2



殺菌中にバルブや配管に**絶対**に手を触れないでください。

燃焼の危険!



TD 461-684

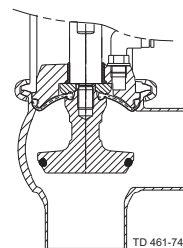


ステップ 3

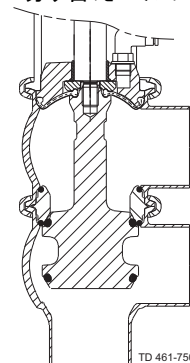
プラグおよびシートを確実に洗浄してください。
 警告メッセージに十分注意してください。
 バルブを一瞬持ち上げてから下ろしてください。

シャットオフバルブ

切り替えバルブ



TD 461-749



TD 461-750

ステップ 4

洗浄液の例:
 塩素を含まないきれいな水をお使いください。

1. 1 w% の NaOH、70° C

1 kg の NaOH	+	100 l 水	=	洗浄剤
----------------	---	------------	---	-----

2.2 l 33% NaOH	+	100 l 淡水	=	洗浄剤
-------------------	---	-------------	---	-----

2. 70° Cで0.5wt%のHNO₃

0.7 l 53% HNO ₃	+	100 l 淡水	=	洗浄剤
-------------------------------	---	-------------	---	-----

4 動作概要

このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。
NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

ステップ 5

1. 洗浄液の濃度を調整します。
2. 洗浄流量を調節します。
3. 洗浄後は**必ず**よく水洗いしてください。

メモ

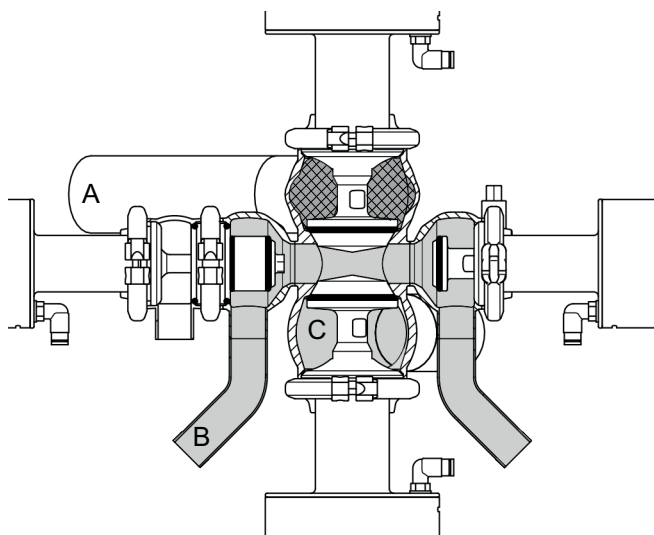
洗浄剤は、現行の規制や指示に従って保存・廃棄してください。



きれいな水 洗浄剤

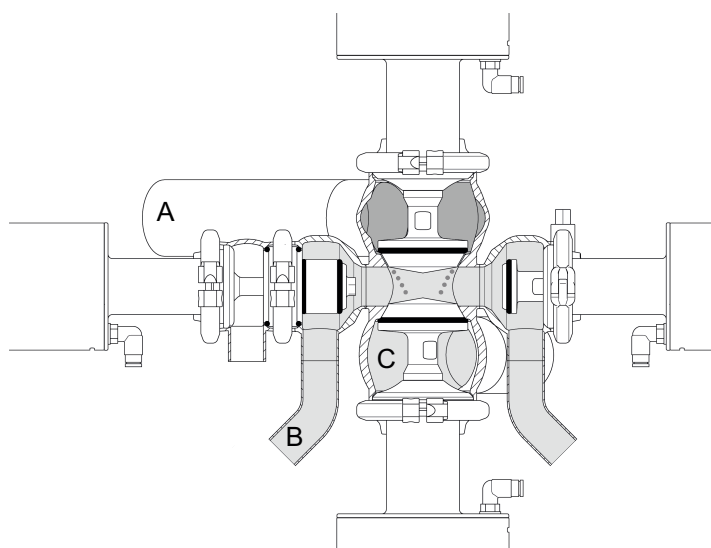
このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
 本文をよく読み、警告には特に注意してください。
 NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
 バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

製造前の滅菌 シートリフトなし



- A. UHTプラントから。
水 135°C
- B. 蒸気入口 3 バー
- C. 無菌タンクへ
3 バー

製造前の滅菌 シートリフト上部

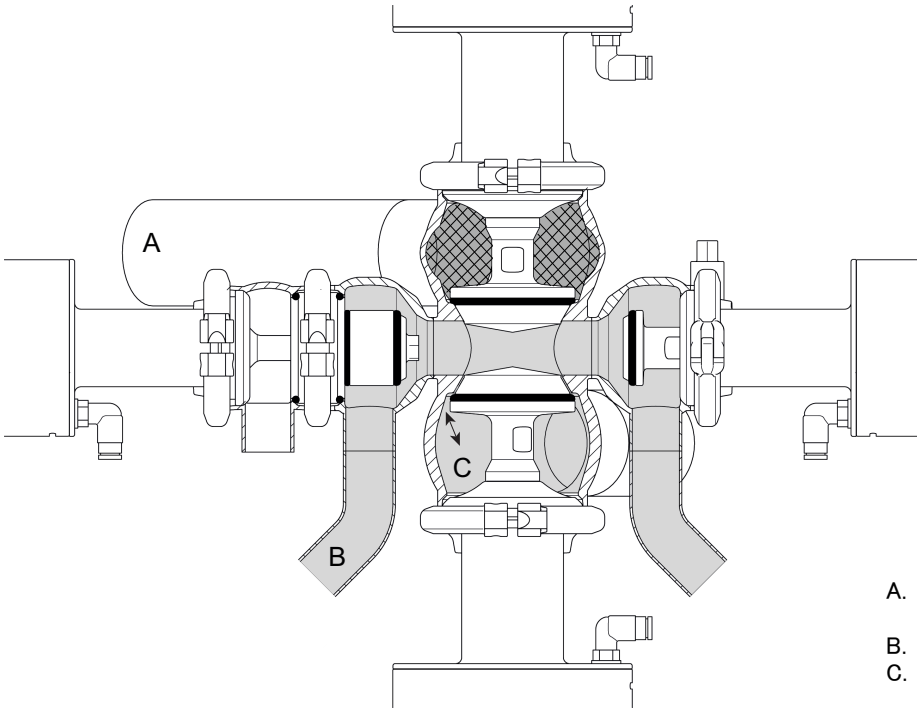


- A. UHTプラントから。
水 135°C
- B. 蒸気入口 3 バー
- C. 無菌タンクへ
3 バー

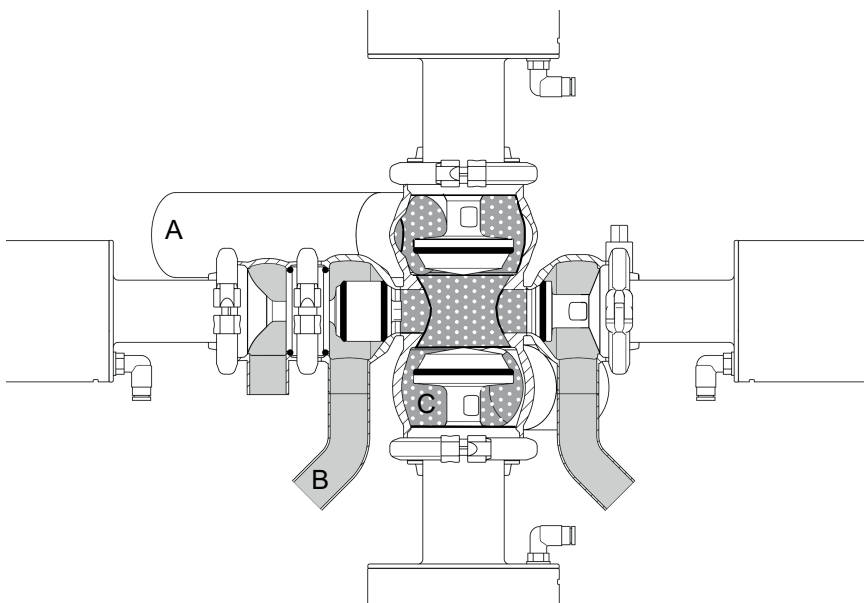
4 動作概要

このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。
NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

製造前の滅菌 シートリフト下部

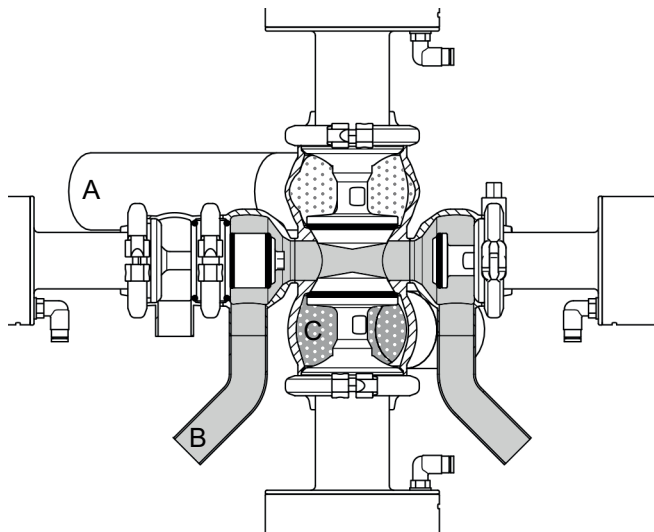


オープンバルブ 生産



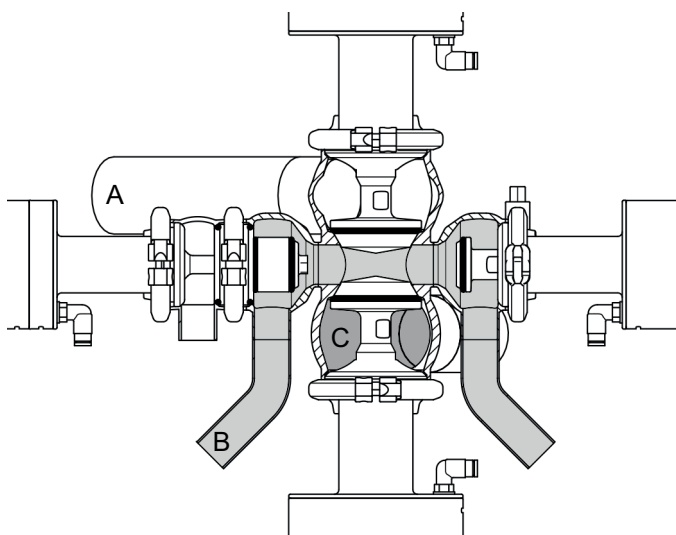
このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。
NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

閉弁 UHT滅菌CIP



- A. UHTプラント
滅菌CIP
- B. 蒸気入口 12 バー
- C. 滅菌タンク
タンク待機

閉弁 待機

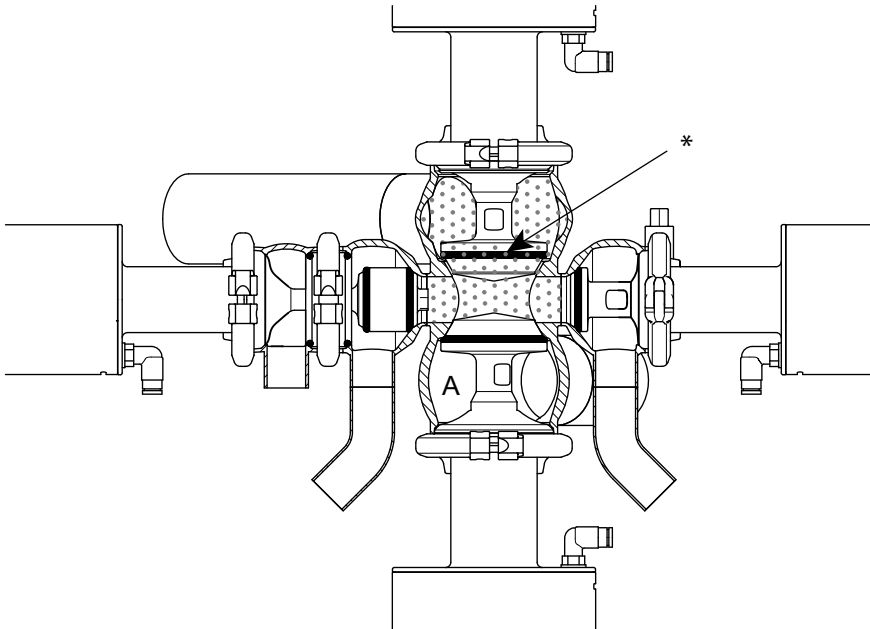


- A. UHTから
- B. 蒸気入口 12 バー
- C. 滅菌タンクへ

4 動作概要

このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。
NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

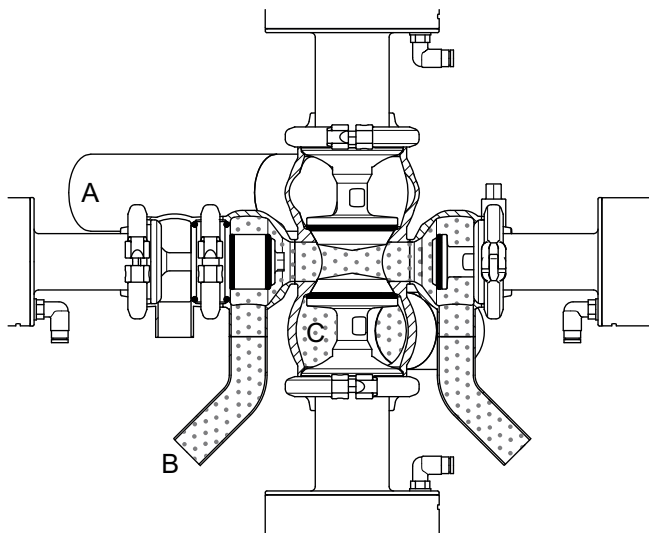
標準 CIP-UHT



* = 開弁

A. 滅菌タンク
待機

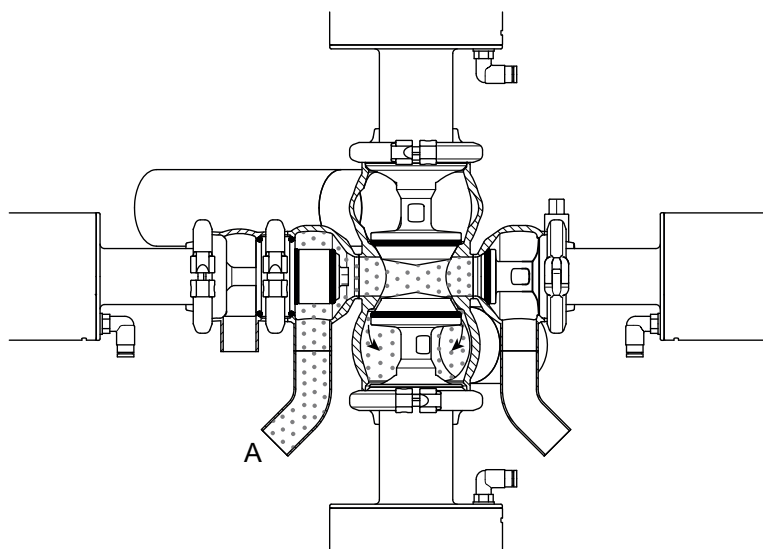
標準CIP滅菌タンク



A. UHTプラント
待機
B. CIP転送から滅菌タンクへ転送され
たCIP転送
C. CIPリターン滅菌タンクへ戻る

このバルブは、CIP(定置洗浄)対応に設計されています。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。
NaOH = 苛性ソーダ HNO₃ = 硝酸。
バルブ内部の漏れは、漏出出口によって外部から確認できます。

標準CIPCIP 滅菌タンクシートリフト



A. CIP転送から滅菌タンクへ転送されたCIP転送

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

5.1 通常のメンテナンス

ステップ 1



- 注意

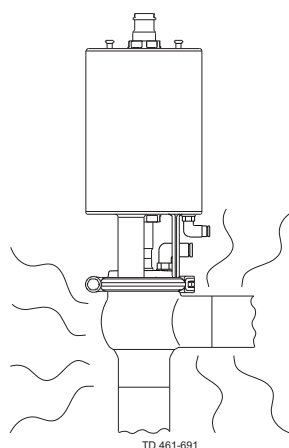
- Alfa Lavalは、不適切なインストールによる不具合に責任を負いかねます。
- バルブ使用後は、必ず圧縮エアを抜いてください。
- テクニカルデータを必ずよく読んでください。セクション 6.1 テクニカルデータをご参照ください。
- 必ずアルファ Laval純正予備部品をご利用ください。アルファ Laval製品保証はアルファ純正予備部品の使用に依存します。

ステップ 2



バルブが熱くなっているときには、絶対に作業を行わないでください。

バルブの作業を行う時は、必ず配管/バルブ共に加圧されていないことを確認して下さい。



常
圧
が
必
要
で
す
!

燃焼の危険!

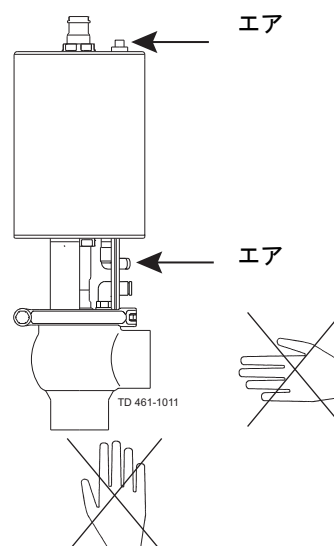


ステップ 3



アクチュエーターに圧縮エアが供給されている場合は絶対にバルブ内に指を入れないでください。

アクチュエーターに圧縮エアが供給されている場合は、絶対に移動部品に手を触れないでください。



エア

エア

可動部

切られる危険!

バルブを定期的に点検修理してください。

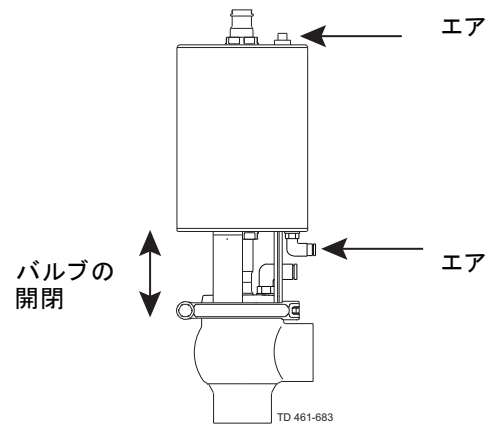
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイアグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

下表は保守および潤滑間隔の目安を示しています。この目安は1シフトにおける通常の動作条件に対するものです。

	接液シール	アクチュエータ・ブッシュ全体
予防メンテナンス	動作条件に応じて12ヶ月で交換する。	動作条件に応じて5年で交換する。
液漏れ後のメンテナンス (通常漏れは徐々に始まります)	1日の終わりに交換する。	CIP必要に応じて交換する。
計画的メンテナンス	<ul style="list-style-type: none"> - 液漏れや動作のスムーズさを定期的に検査する。 - バルブの検査結果を記録する。 - 検査計画のために統計を使用してください。 - 漏れ後交換してください。 	<ul style="list-style-type: none"> - 液漏れや動作のスムーズさを定期的に検査する。 - アクチュエータの検査結果を記録する。 - 検査計画のために統計を使用してください。 - 漏れ後交換してください。
潤滑	据付前に Klüber Paraliq GTE 703 または同等な USDA H1 承認のオイル/グリスを使用する。	Molykote Longterm 2 プラスを塗布する前に

使用前チェック:

1. 圧縮エアをアクチュエーターに供給します。
2. バルブを数回開閉して、円滑に動作することを確認します。
警告に対して細心の注意を払ってください。



推奨予備部品
サービスキット

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

5.2 シャットオフバルブを解体します

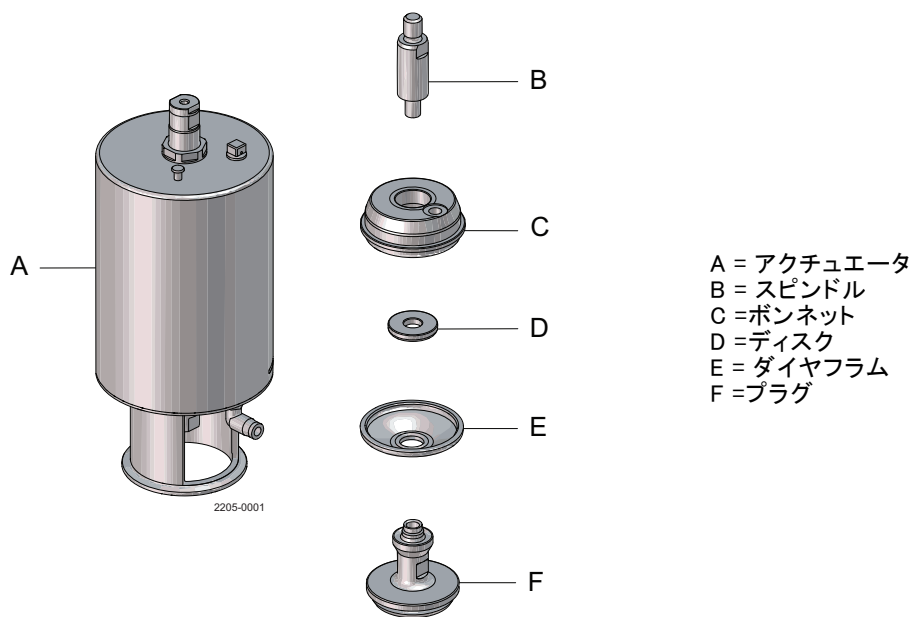
アクチュエータに危険警告がマークされている場合、同アクチュエータを切り開かないでください。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

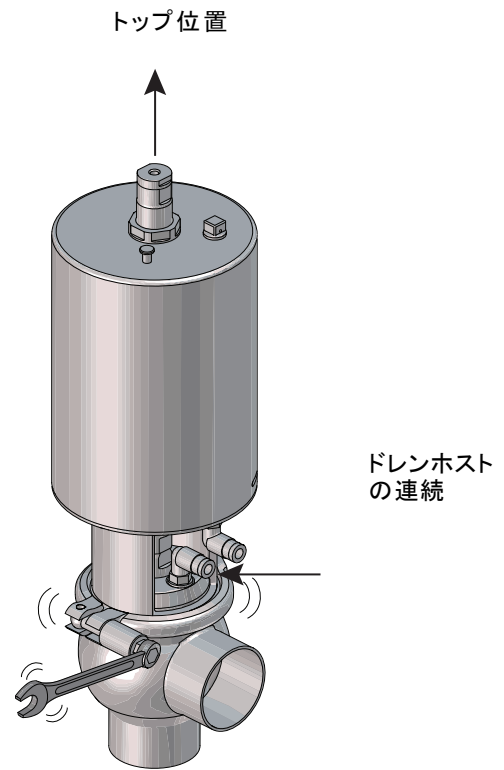


バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

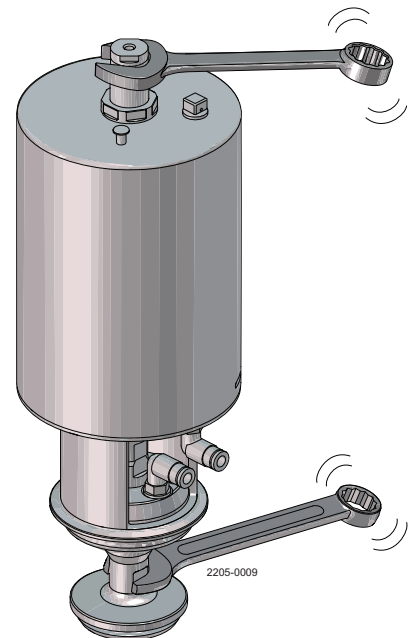
ステップ 1

1. プラグをトップ位置に動かしてください。
2. エアドレンホストを取り外してください。
3. パイプが空くこと、加圧しないことを確認してください
そして、10mmのスパナを使ってクランプを緩めてください。



ステップ 2

二つの17のスパナを使用して、アクチュエータのプラグを緩めてください



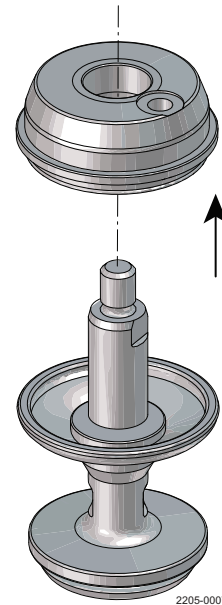
5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 3

ボンネットを取り付けます。

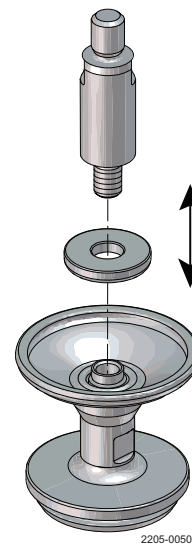
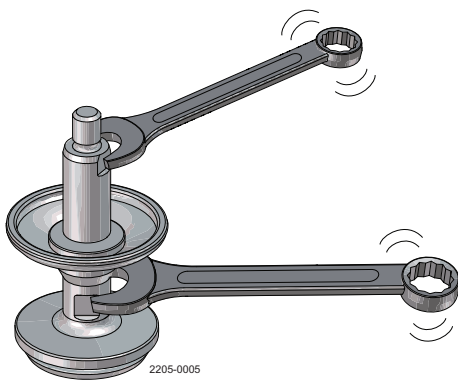


ステップ 4

二つの17のスパナを使用して、スピンドルのプラグを緩めてください

必要に応じて、ボンネットのブッシング(24)を変更することができます

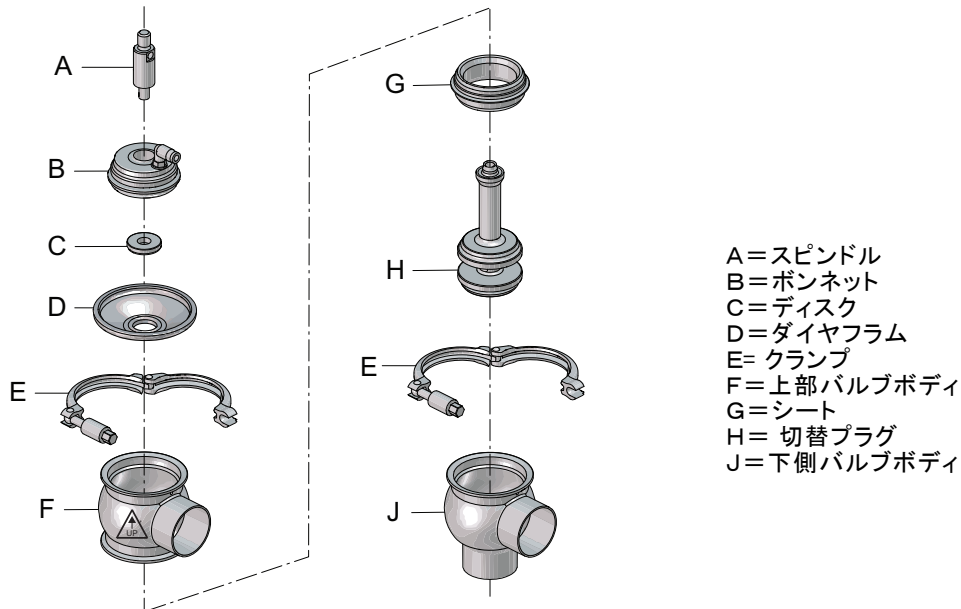
各部のクリア及びダイヤフラムとプラグシールの交換



バルブを定期的に点検修理してください。

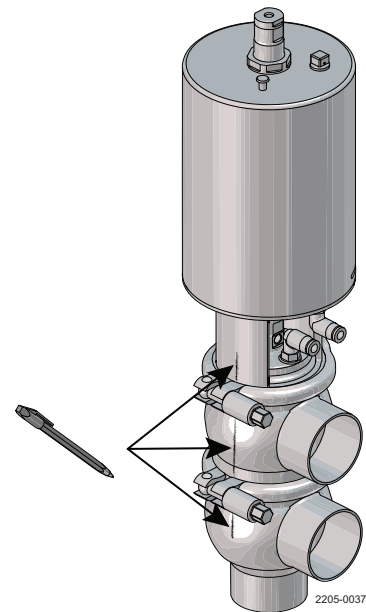
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

5.3 b. 切替バルブを分解します



ステップ 1

分解する時に、アクチュエータ、上部バルブ及び下側バルブの位置をマークします。これによって、再組立がもっと易しくなります。当該バルブをワークショップの同じ位置に装着することができます。



警告 (人)

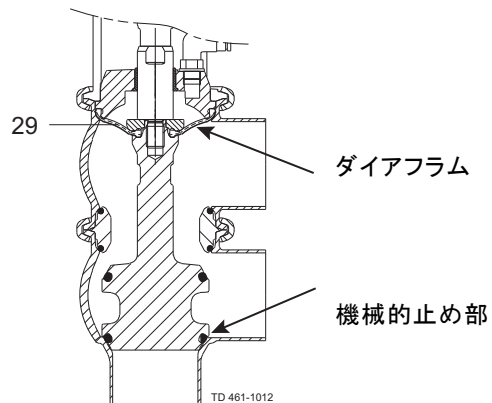
CORRECT 組立と分解はダイヤフラムの破壊(引っ張る)を避けます

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

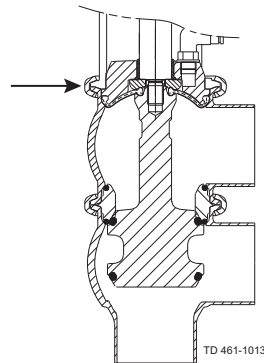
重要！

当該機械的止め部が下側のボディに位置します。
ダイヤグラムの過伸展を避けるように、上側ボディクランプを緩める前に、下側のボディクランプを緩めないでください。



推奨予備部品 サービスキット

上部クランプ



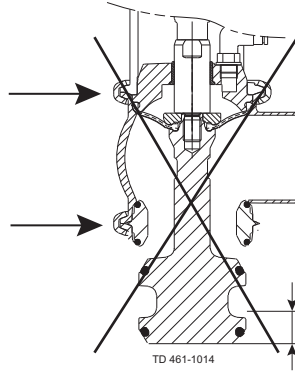
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

無菌混合防止バルブ切替バルブの誤った組立および分解

上部クランプが装着られ、
これが正しくない動作です。

下側クランプが取り外される



もっと下側に移動しましたので、10 mm
当該プラグがダイヤフラムを過伸展し
ます。

ステップ 2

上部クランプを緩める前に、アクチュエータシステムが上の位置にあることを確認してください。

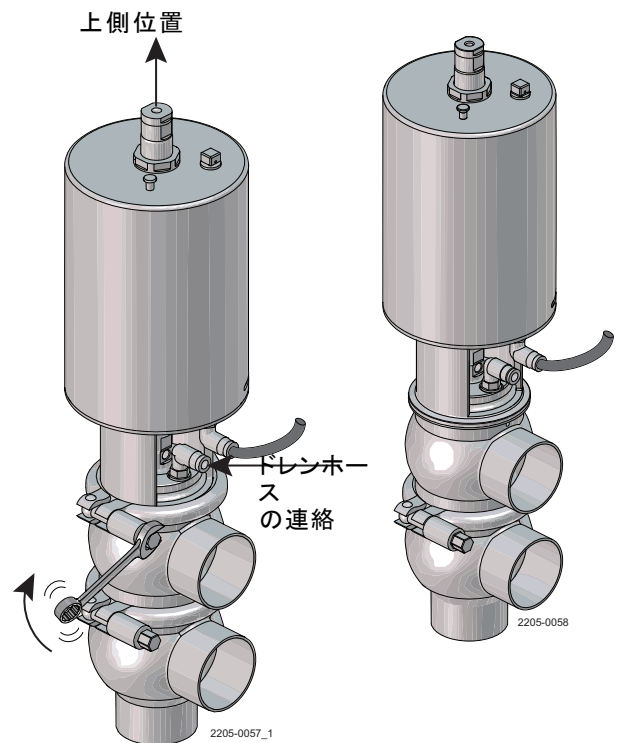
エアドレンホストを取り外します。

パイプが空くこと、加圧しないことを確認してください。

ALWAYSダイヤフラムに損傷を与えないように、上部クランプを取り外します。

IMPORTANT

下部のクランプを取り外しないでください、プラグが下側に位置する場合を除きます。もしプラグが下側に移動したら、ダイヤフラムが壊れられる。



5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

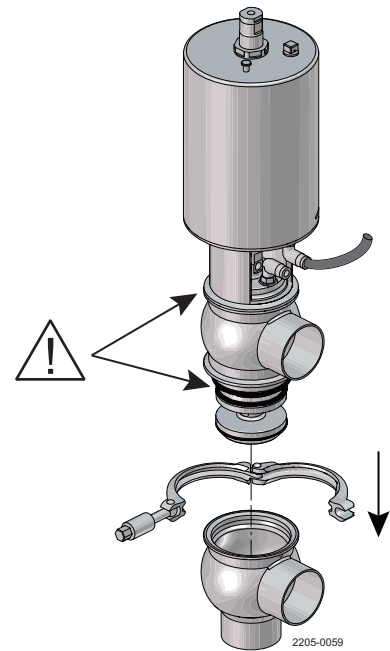
ステップ 3

上部バルブ及び下側バルブを解体します。



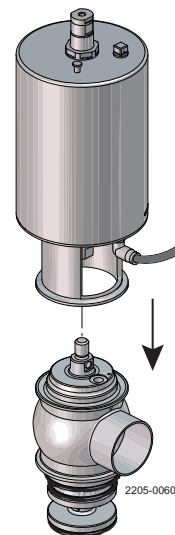
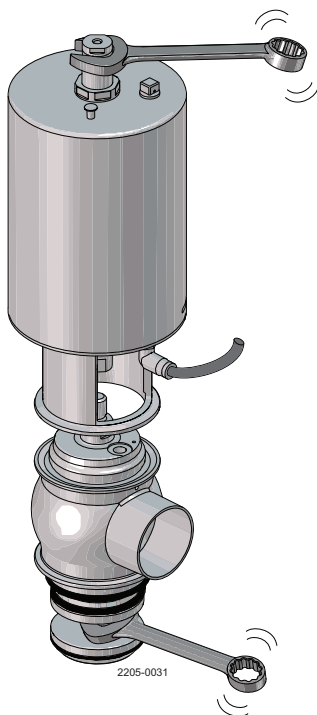
DANGER!

「ボンネット」と「シートリング」を手に触れるな。



ステップ 4

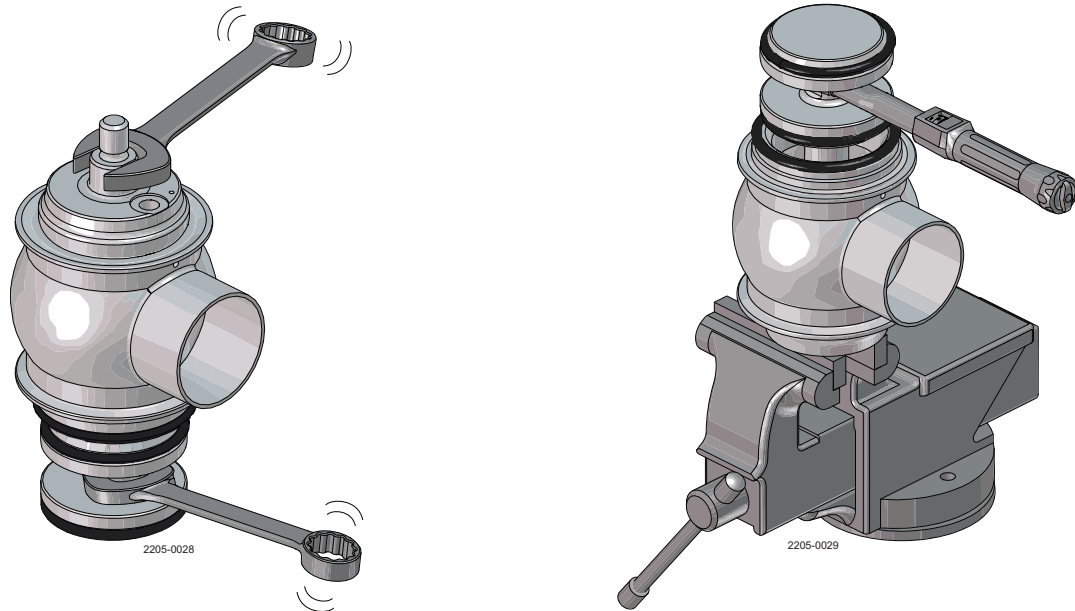
アクチュエータのスピンドルを緩めてください。17 mm スパナを使用します。アクチュエータシステムを下側の位置に置いてください。現在、プラグ/シート/上部バルブボディをアクチュエータ・ヨークから取り外されることができます。



バルブを定期的に点検修理してください。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 5

プラグのスピンドルを緩めてください。17 mm スパナを使用してください。
万力を使うことは最も簡単です。

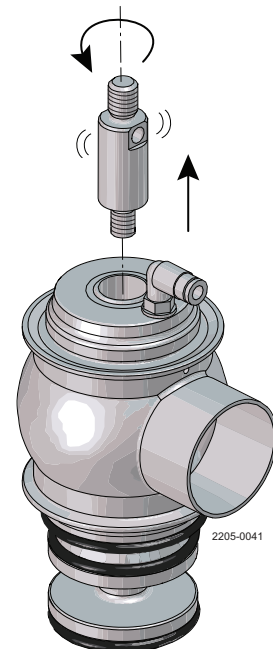


ステップ 6

スピンドルをプラグから解体します。

NOTE:

ボンネットの漏出継手を解体する必要がありません。



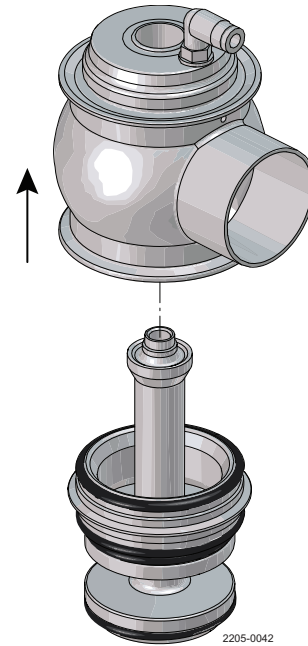
5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 7

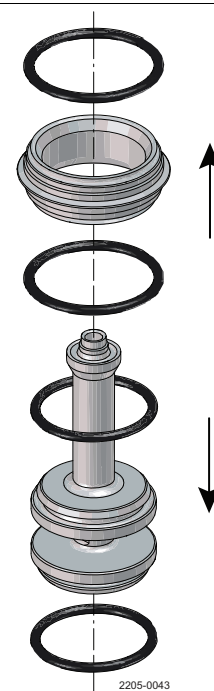
上側バルブボディをプラグ/シートから解体します。



ステップ 8

シートをプラグから解体します。

Oリングをシートとプラグから交換することを注意してください。



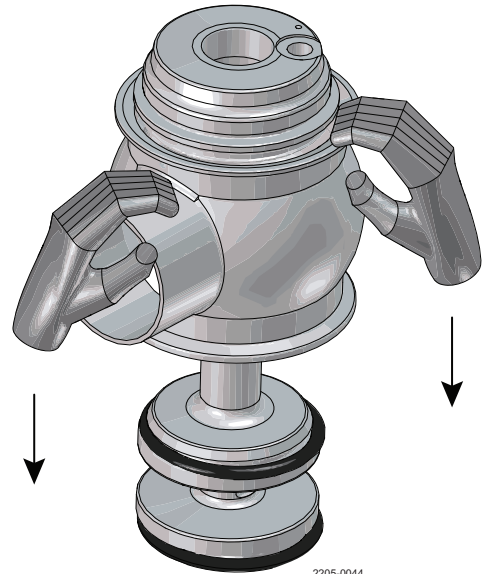
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 9

ボンネットを上側バルブボディから解体します。
下記の動作をします - プラグでボンネットをバルブからプレスします。

プラグをシートから解体します。プラグを上側バルブボディに置いて、ボンネットを緩めるように、上側バルブをプレスします。
プラグを壊れないように注意してください。

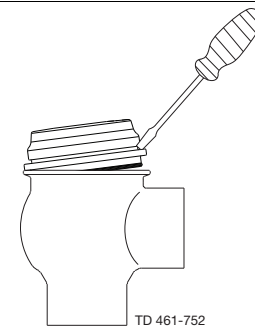


2205-0044

ステップ 10

ご注意

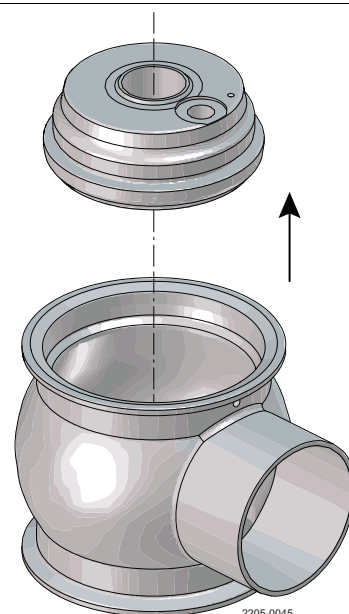
ボンネットとバルブの間にスクリュードライバーを使用することができます。スクボンネットに「opening」というマークの位置にリュードライバーを装着することができます。



TD 461-752

ステップ 11

ボンネットとダイヤフラムを解体します。



2205-0045

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

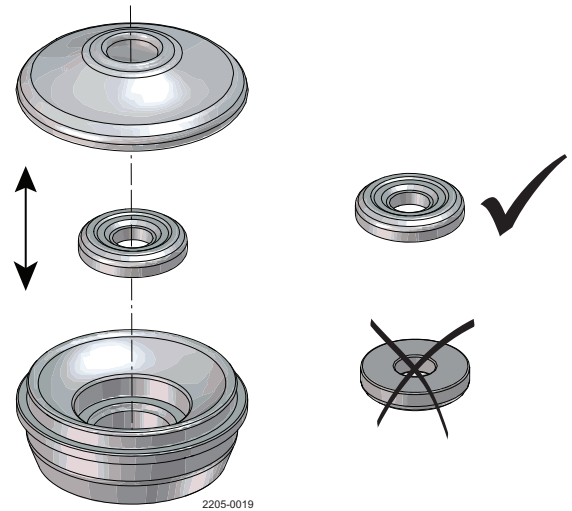
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 12

ダイヤフラムを交換してください。

ディスクの丸みを帯びた面がダイヤフラムの方を向いていることが重要です。

必要ならば、ボンネットのブッシュ(24)を交換することができます。



2205-0019

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

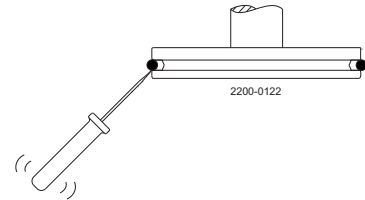
5.4 プラグシールの交換

ステップ 1

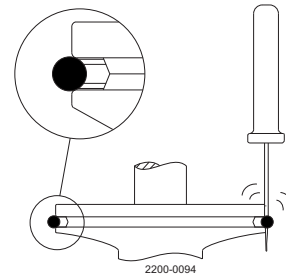
1. ナイフやドライバなどを使って古いシールリングを取り外してください。
プラグ表面に傷をつけないよう注意してください。
ドライバを利用する場合、プラグの溝下部に放置しなければなりません(図面1の通り)。
2. 点検修理キットに含まれているParalique GTE 703で、新しいシールリングにグリースを塗ってください。
微量のグリースで十分です。
3. 溝に押し付けないようにプラグにシールリングを取り付けてください。
シールリングが縊り合わせないよう注意を払ってください。
適当にシールリングを取り付けて、また縊り合わせていないこと確保するには、ドライバ(2回転)をご利用ください。
4. 手動またはアルファ・ラバルプラグツールにより、今シールリングをマウントできます。

図面1

プラグ下部にドライバを放置することはとても重要です。



図面2



5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

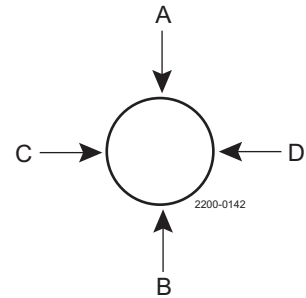
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイアグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 2

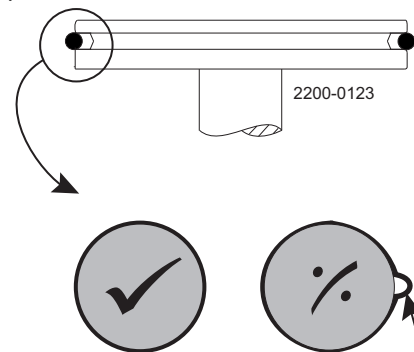
手動でプラグシールリングをマウントする場合

1. ステップ 1に記載したシールリングが先に装着されることを確認します。
正しく装着してください。親指でシールリングをほぼ10回押し、それに逆の圧力ポイントにてA からB、C、Dまでの順位で押します。(図面 3を参照してください)
「膨らみ」がないようチェックします(図面参照)。
小さい膨らみが生じた場合、ドライバーで除去してください。もう一度親指でシールリングを押して、360° 回転したまで圧力を維持します(図面3の通り)。
2. シールリング後における圧縮エアの解放が重要です。ドライバーで操作でき、また示された通りずっとプラグ下部に位置します。
外周上の一または異なる二ポイントで操作しなければなりません。
プラグとシールリングの表面にマークをつけないよう注意してください(図面4の通り)。

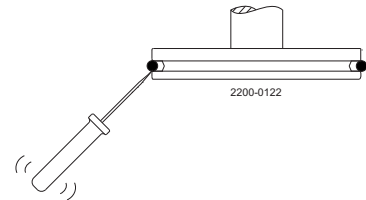
図面3



図面4



図面5



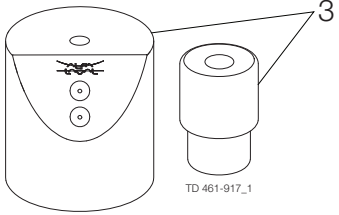
膨らみ

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイアグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 3

アルファ・ラバルプラグツールでプラグシールリングをマウントする場合

エラストマー プラグシール 用取り付けツール	DN25 25 mm	DN40 38 mm	DN50 - DN65 51 mm - 63.5 mm	DN80 - DN100 76.1 mm - 101.6 mm
	9614060001	9614060002	9614060003	9614060004

1. 部品B

「部品B」に小さいと大きな直径があるから、同ツールは二つのプラグサイズに利用できます。例えば、プラグツール=9614060003 はDN50/ISO51 (小さい)とDN65/ISO63 (大きい)に利用できます。
それで、プラグサイズの直径に合致するため、「部品B」を回転させなければなりません。

2. 部品A

「部品A」により高いとより低い排気孔があるから、同ツールは二つのプラグサイズに利用できます。例えば、プラグツール=9614060003など。
上部排気ホールが小さいプラグサイズ、例えばDN50/ISO51 (小型)に、下部排気ホールがDN65/ISO63 (大型)に利用できます。

「切替プラグ」を利用する場合、「部品A」にも「部品B」にもスピンドルを取り付けなければなりません。(図面 2の通り)。
「逆動作式プラグ」を利用する場合、「部品A」だけにスピンドルを取り付けてください。(図面 1の通り)。

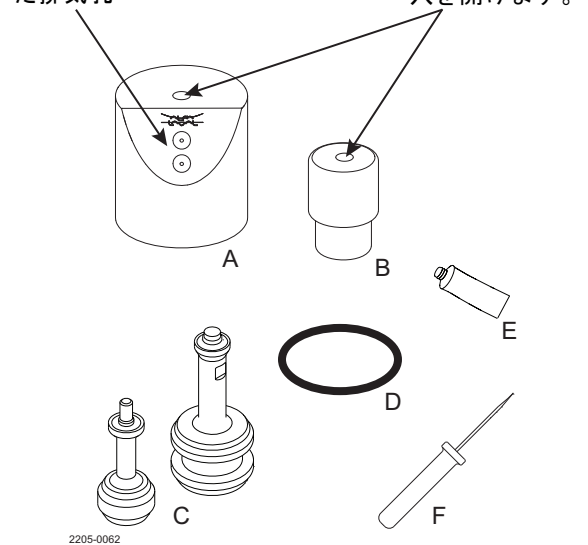
3. 「部品B」または「部品A」にプラグスピンドルを取り付けてください。

「部品B」の上に「部品A」を置いてから、「部品A」のトップで、「強く」押してください。

現在「部品A」への圧力を保持するとともに、排気孔の中、またプラグの溝下部にドライバーを取り付けてください。
これで、シールリングの後におけるエアの除去を適当に確保できます。通常、一回起動音が聞かれます(図面 3の通り)。
「部品A」での押し付けには、「ボール盤」も利用できます。

4. シールリング後における圧縮エアの解放が重要です。ドライバーで操作でき、また示された通りずっとプラグ下部に位置します(図面 4の通り)。

ドライバーに整備した排気孔
プラグスピンドルに整備した穴を開けます。



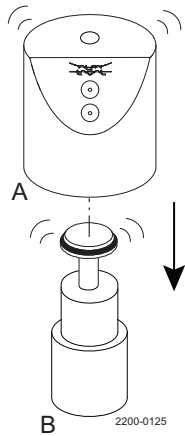
- A. 部品A
- B. 部品B
- C. プラグ
- D. Oリング
- E. 点検修理キットに含まれているParalique GTE703で、グリースを塗ってください。
- F. ドライバー(ピン角なし)

5 メンテナンス

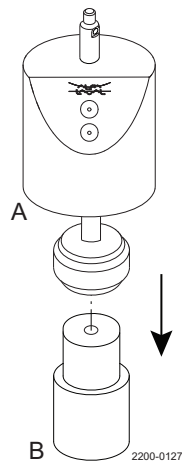
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

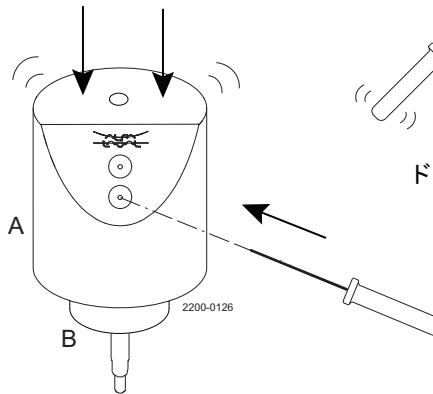
図面1



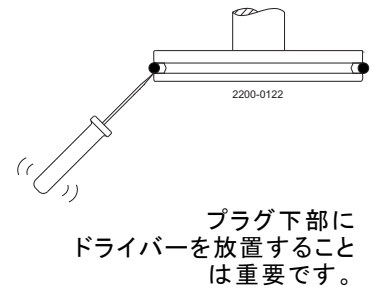
図面2



図面3



図面4



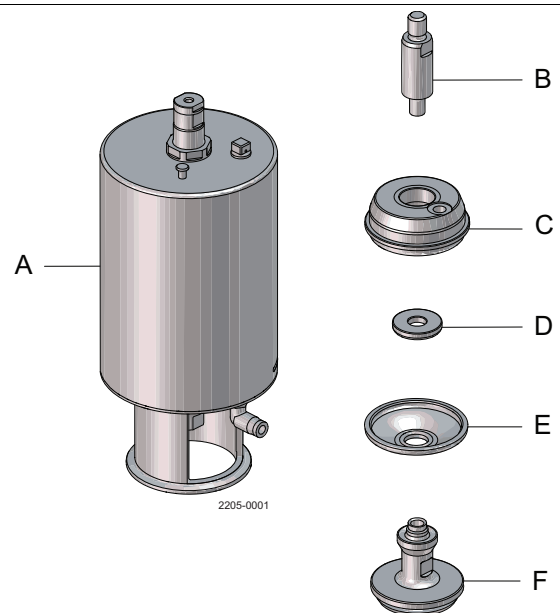
プラグ下部に
ドライバーを放置するこ
とは重要です。

5.5 シャットオフバルブの組立

ステップ 1

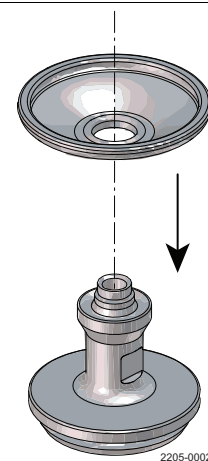
部品を装着する前に、清潔しなければならない。

- A. アクチュエータ
- B. スピンドル
- C. ボンネット
- D. ディスク
- E. ダイアフラム
- F. プラグ



ステップ 2

新しいダイアフラムを取り付けます。



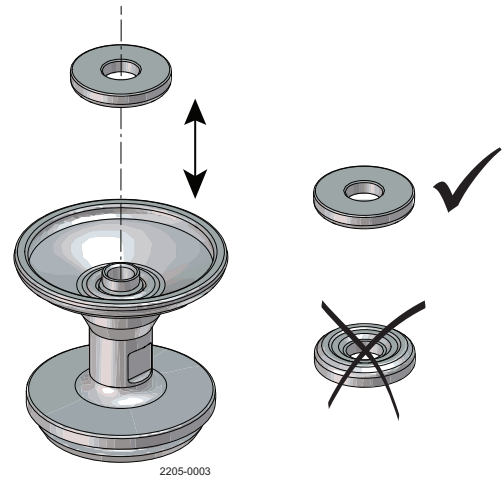
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 3

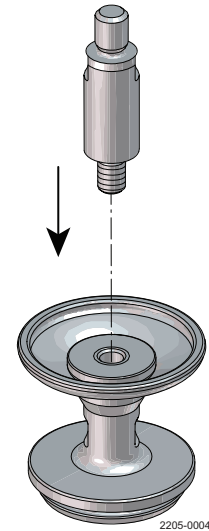
ディスクをプラグにはめ込みます。

ディスクの丸みを帯びた面がダイヤフラムの方を向くことが重要です。



ステップ 4

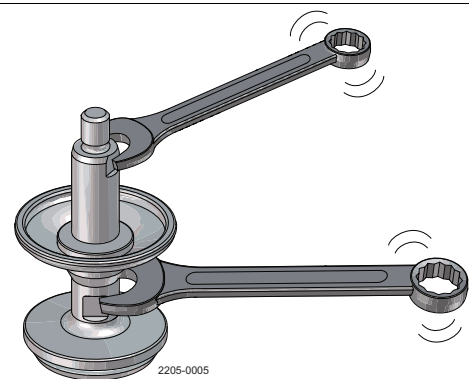
スピンドルを装着します。



ステップ 5

スピンドル及びプラグをしっかりと締める:

- 51 mm (2") ~ 76.1 mm (3")、トルク = 33 Nm
- 25 mm (1")、トルク = 17 Nm



5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 6

ダイヤグラムを装着する前に、水でボンネットの丸い縁を潤滑することを強くお勧めします。これによって、ダイヤグラムを正確に装着しやすくなります。

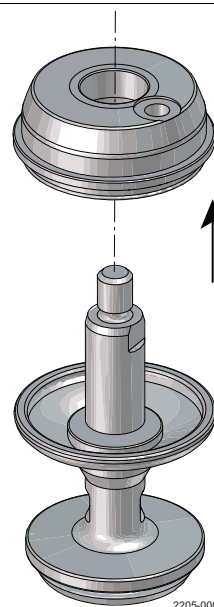
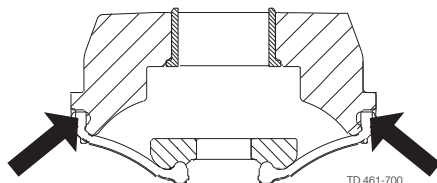


ステップ 7

ボンネットをスピンドルに取り付け、ダイヤグラムを取り付けます。ダイヤグラムに傷が付くことを防ぐため、指だけで押してください。ダイヤグラムをボンネットの丸い縁に正しく装着することを保証してください。

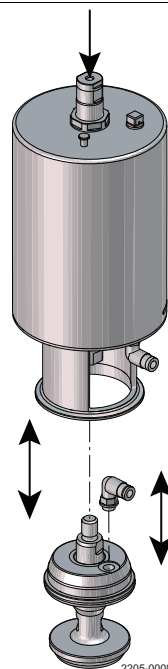
注意!

バルブ本体にダイヤグラム/システム主体を装着する前に、ダイヤグラムをボンネットにしっかりと取り付けられることを確認してください。



ステップ 8

ボンネットの排気口の継手を装着します。アクチュエータシステムを下側の位置に置いてください。組立済のプラグユニットをアクチュエータシステムに装着します。



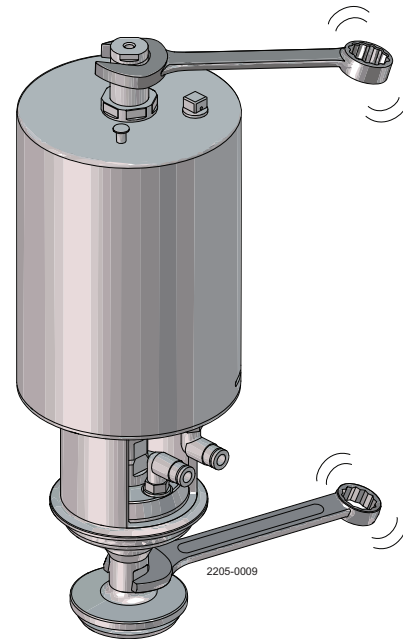
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 9

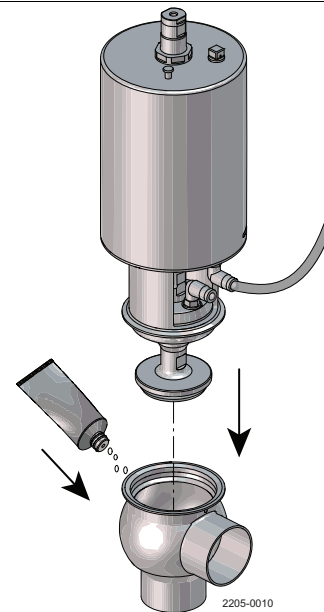
スピンドル及びプラグをしっかりと締める:

- 51 mm (2") ~ 76.1 mm (3")、トルク = 33 Nm
- 25 mm (1")、トルク = 17 Nm



ステップ 10

ボンネット/ダイヤフラムをバルブボディに装着する前に、シールリングの表面にグリース(Paraliq GTE 703)を塗ります。ダイヤフラムをバルブボディに押された時に、摩擦を減少することができます。アクチュエータシステムが下側に位置することを確保して、これによって、ダイヤフラムをバルブボディに装着してやすくなります。真空で「NC」タイプのアクチュエータを装着します。真空で「NO」タイプのアクチュエータを装着します。



5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 11

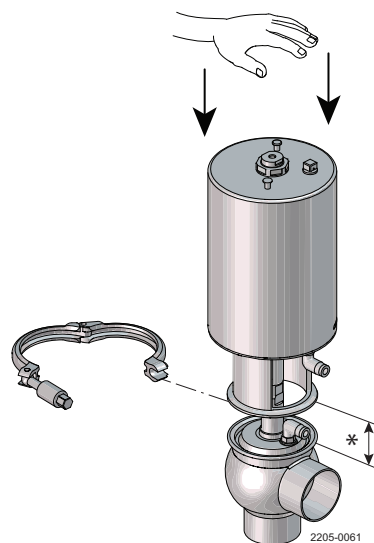
アクチュエータシステムを下側の位置に置いてください。
アクチュエータのトップを押して、バルブにボンネット/ダイヤグラムを装着します。

大きな隙間があるんですが、ダイヤグラムが既にバルブボデーに装着しました。

ご注意

大きな開口があるんですが、ダイヤグラムが既にバルブボデーに装着しました。

* = 大きな隙間



ステップ 12

今、アクチュエータシステムを上側に移動して、それから上側のアクチュエータを力を入れて押して、当該隙間を減少します。1mm。

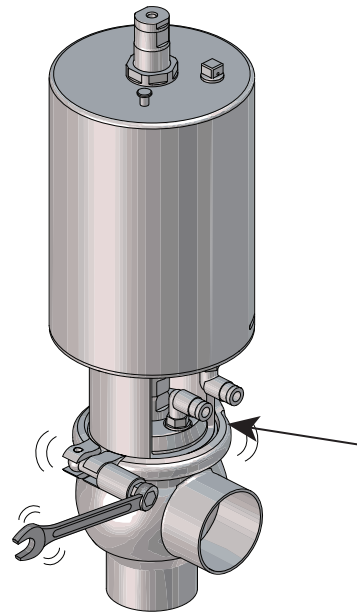
ステップ 13

クランプを装着します(正しく位置することを確認してください)。

10mmのスパナを使って締め付けます。トルク= 10-12 Nm。

スレッドにモリコートグリースを塗ります。

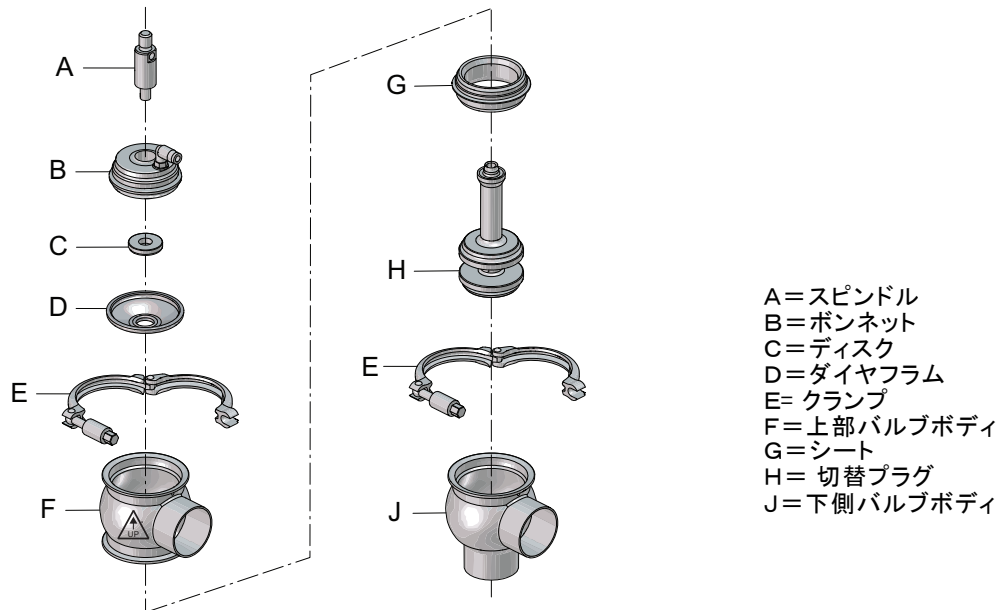
シールリング部品にホースを装着します(漏れ検出用のホース)。



5.6 切り替えバルブの組立

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。



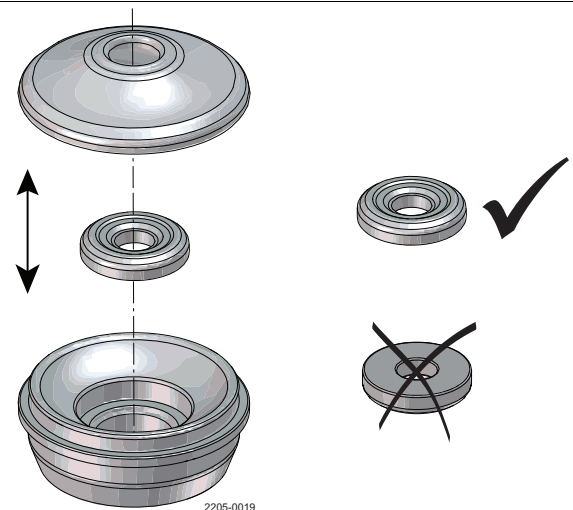
ステップ 1

ダイヤフラムを装着する前に、水でボンネットの丸い縁を潤滑することを強くお勧めします。これによって、ダイヤフラムを正確に装着しやすくなります。



ステップ 2

ボンネットにディスクを装着して、当該平らなディスク側がボンネットブッシングに向かいます。ディスクの丸みを帯びた面がダイヤフラムの方を向くことが重要です。



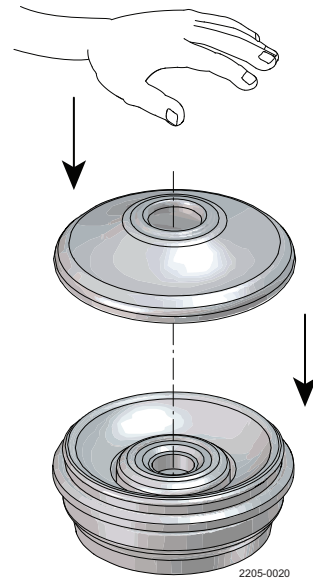
5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

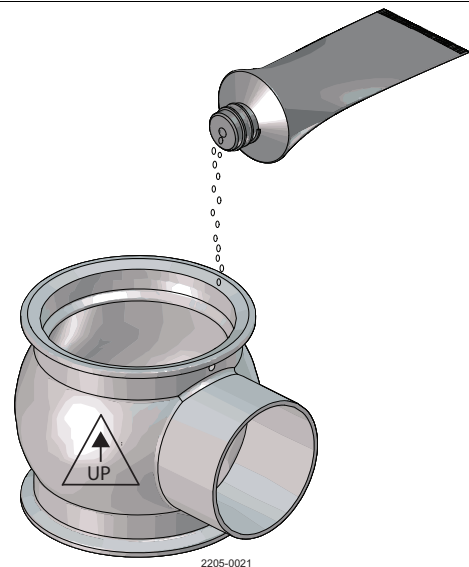
ステップ 3

ダイヤフラムをボンネットに装着します。漏れないでダイヤフラムを傷つけないように、指でしか押さないでください。ダイヤフラムをボンネットの丸い縁に正しく装着することを保証してください。



ステップ 4

ダイヤフラムを正しく装着するように、グリース(Paraliq GTE 703)で上側のバルブボディの縁を円滑することを強くお勧めします。漏れないように、シールリングの表面を清潔にしなければなりません。

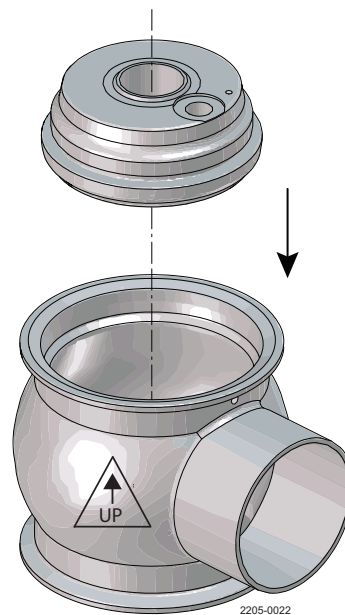


バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

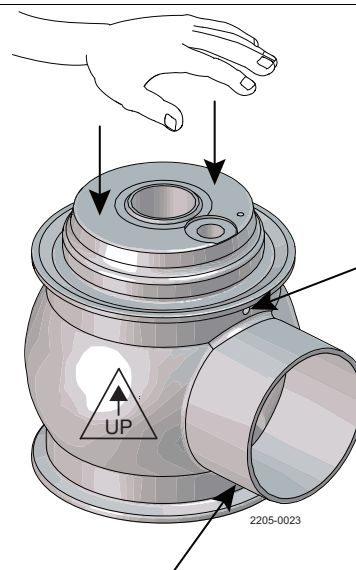
ステップ 5

ボンネット及びダイヤグラム(ディスク)を上側バルブボディに装着します。



ステップ 6

バルブボディを $\phi 2$ ホースの上側に位置つけます。ボンネットを上側バルブボディに強く押します。



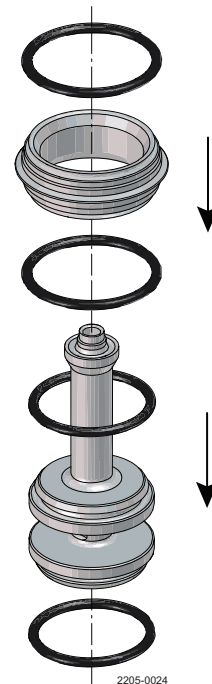
5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 7

シートをプラグに装着します。新しいO-リングをシート及びプラグに装着します。



2205-0024

ステップ 8

プラグの処理に少量の「ロックタイト243」使用します。ネジ穴の外側に水滴をこぼさないように注意してください。これはディスクを接着してプラグを差し込むため、次回のサービス実行時にバルブを取り外すのが困難になる可能性があるためです。



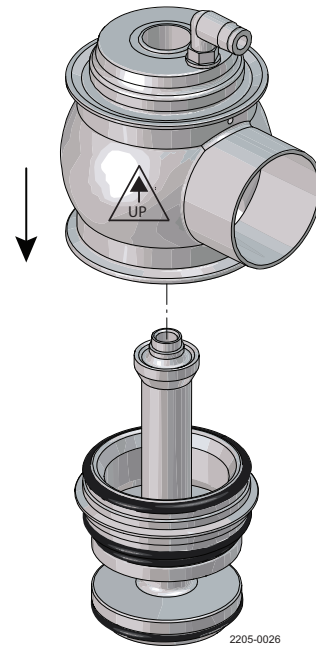
2205-0025

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

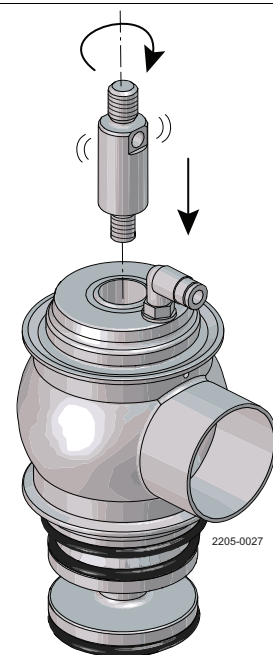
ステップ 9

上側バルブボディをプラグ/シートに装着します。



ステップ 10

スピンドル及びプラグの組立。スピンドル及びプラグをネジで締める時に、ディスクを正しい位置に置いてください。ボンネットに漏れ継手を装着してください。



5 メンテナンス

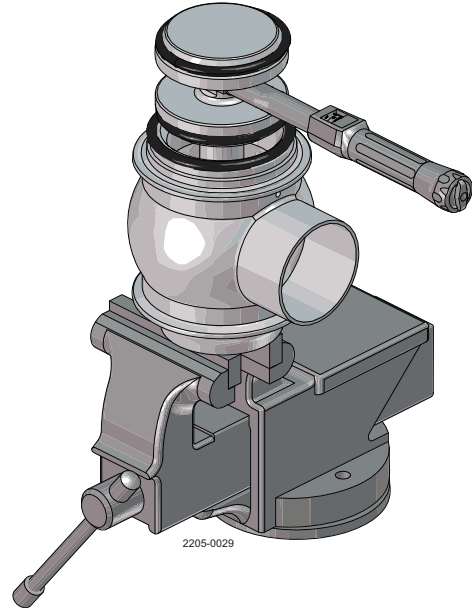
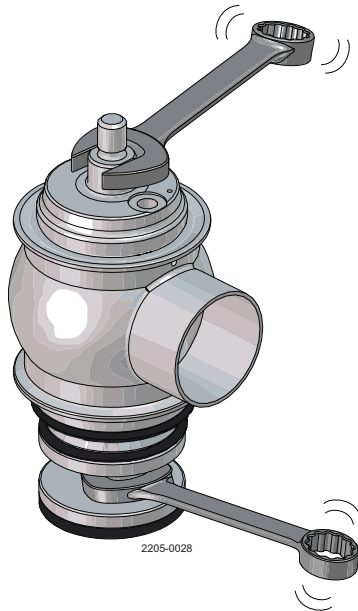
バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 11

スピンドル及びプラグをしっかりと締める。17 mm スパナを使用します。万力を使うことは最も簡単です。

トルク= 33 Nmでバルブサイズ51 mm(2")~76.1 mm(3")に締め付ける
トルク= 17 Nmでバルブサイズを25 mm(1")締め付ける

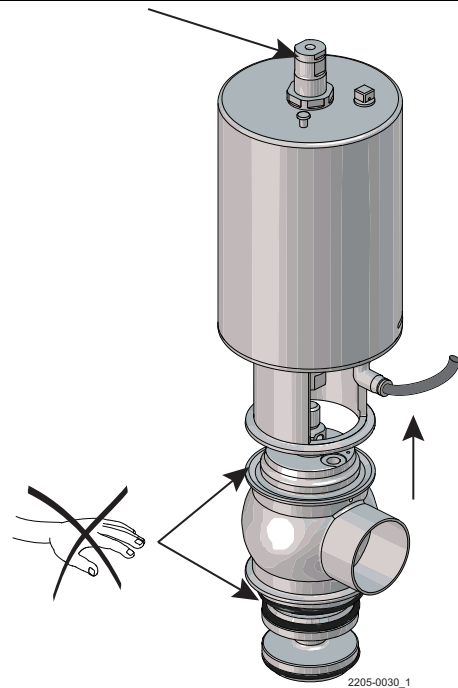


ステップ 12

アクチュエータシステムを下側の位置に置いてください。アクチュエータでバルブボディ/プラグを締め付けます。アクチュエータを起動します。もし変形がなければ、当該アクチュエータシステムが下側に移動して、正しく装着することを確保します。

危険！

「ボンネット」及び「上側バルブボデー」で傷つけます。



バルブを定期的に点検修理してください。

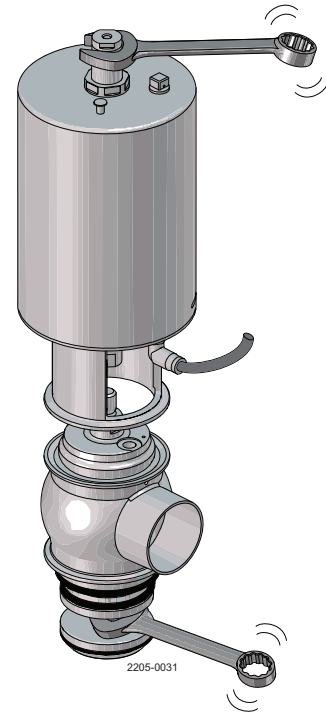
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 13

アクチュエータシステム及びプラグを締め付けます。17 mmスパナを使用してください。

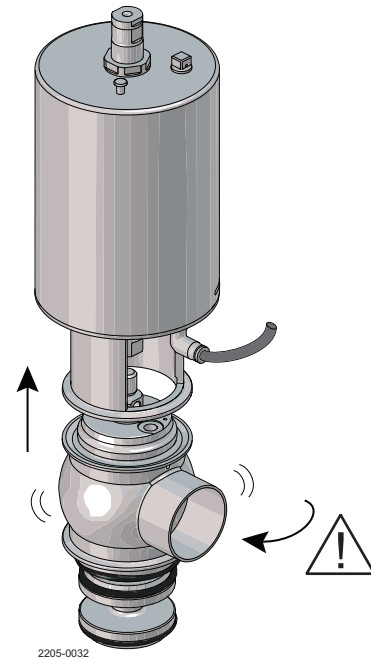
トルク= 33 Nmでバルブサイズ51mm(2")~76.1 mm(3")に締め付ける

トルク= 17 Nmでバルブサイズを25 mm(1")締め付ける



ステップ 14

もし必要でしたら、上側バルブボディ及びアクチュエータを調整します。当該バルブが時計方向に回転します(ダイヤグラムがロックされた時に、当該バルブボディが回転することができます)。



5 メンテナンス

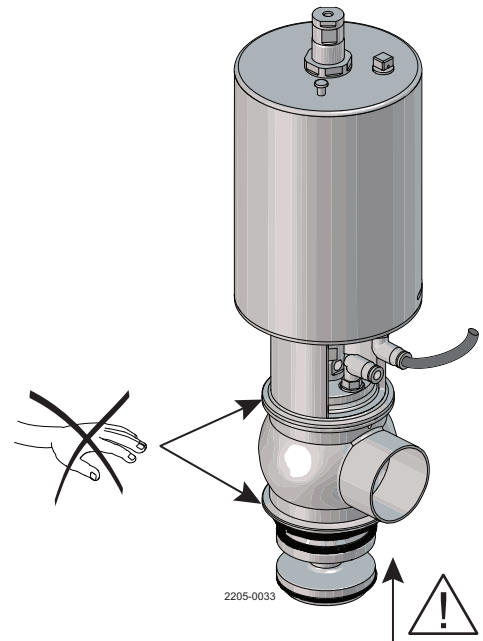
バルブを定期的に点検修理してください。
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 15

アクチュエータシステムを上側の位置に置いてください。

危険！

「ボンネット」と「シートリング」で傷つけます。



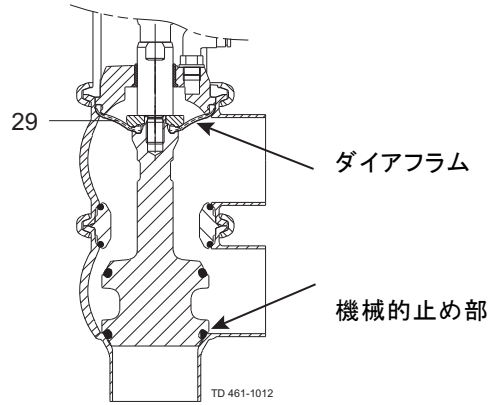
バルブを定期的に点検修理してください。
 本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 16

CORRECT 組立と分解はダイヤグラムの破壊(引っ張る)を避けます

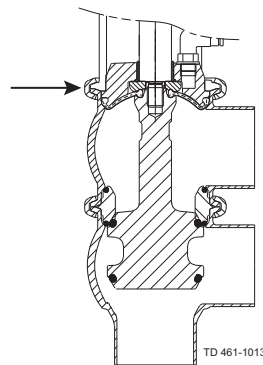
重要!

当該機械的止め部が下側のボディに位置します。
 ダイヤグラムの過伸展を避けるように、上側ボディクランプを緩める前に、下側のボディクランプを緩めないでください。



推奨予備部品
 サービスキット

上部クランプ

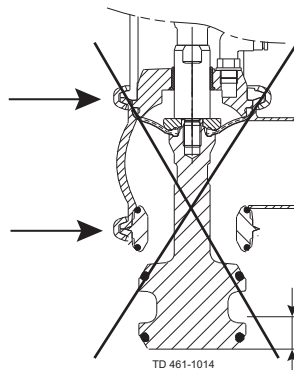


プラグを上の方に置いて、上部クランプを緩めてください。

無菌混合防止バルブ切替バルブの誤った組立および分解

上側クランプがまだ装着したままで、
 是正しなければならないです。

下側クランプが取り外される



もっと下側に移動しましたので、10 mm
 当該プラグがダイヤグラムを過伸展します。

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

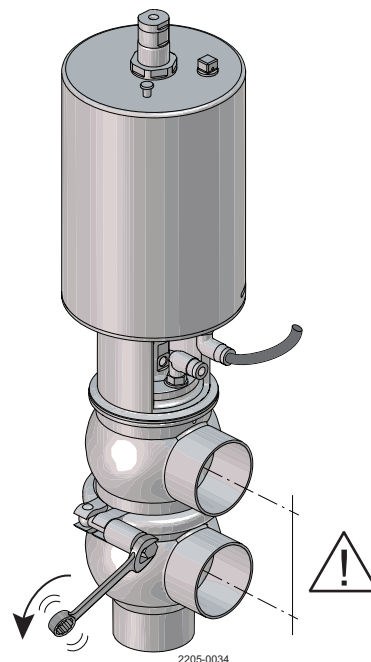
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 17

下側バルブボディを装着しますが、下側クランプを締め付ける前に、上側バルブボディの調整を確保してください。LOWERクランプトルク M付き = 10-12 Nmを締めつけます。

ご注意:

ダイヤグラムを傷つけないように、LOWERクランプを先に装着し、上側クランプを最後に装着します(Step 16をご参照ください)。

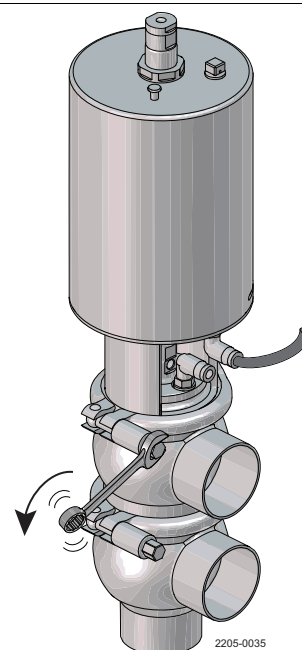


ステップ 18

今、上側クランプを装着して締めつけます - トルク = 10-12 Nm.

IMPORTANT!

下側クランプを解体しないで、プラグが上側に位置したら解体可能です。そうしなければ、プラグが下側に移動したら、ダイヤグラムを壊す可能性があります (Step 16をご参照ください)。



バルブを定期的に点検修理してください。

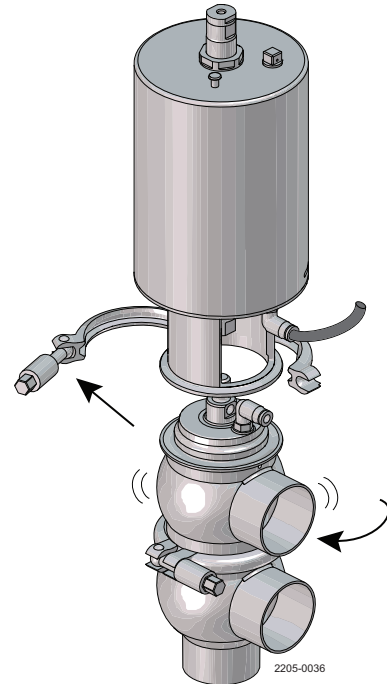
本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

ステップ 19

上側バルブボディを交換する場合は、**上側クランプ**を解体する必要があります。

重要!

下側クランプを解体しないで、プラグが上側に位置したら解体可能です。そうしなければ、プラグが下側に移動したら、ダイヤグラムを壊す可能性があります。(ステップ 16をご参照ください)。



5.7 完全保守可能なアクチュエータの解体

アクチュエータに危険警告がマークされている場合、同アクチュエータを**切り開かない**でください。



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！

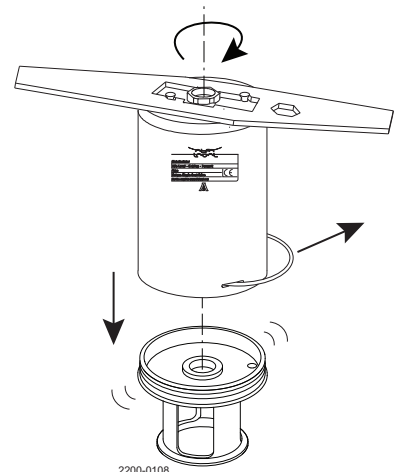


スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

解体検査する前に、当該アクチュエータに警告マーク無しことを確認してください。

1. シリンダを回転させてください。
2. ロックワイヤを外して、シリンダを引き抜いてください。
3. 上下のブッシュを外してください。
4. ピストンを O-リングとスプリングアセンブリと共に外してください。

シリンダを分解用工具で回転させてください。



注意 A/A アクチュエータにはスプリングアセンブリはありません。

5 メンテナンス

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイヤグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

5.8 完全保守アクチュエータのマウント

注！ アクチュエータのタイプに基づいて、ステップ 1またはステップ2を選びください。

ステップ 1

1. 5.7 完全保守可能なアクチュエータの解体の順序を逆にします。
 2. O-リング (3, 7, 11) は、はめる前に Molykote Longterm 2 プラスを塗布してください。
 3. ブッシュを10 Nmのトルクで締め付け、締めすぎないように注意してください。
-

バルブを定期的に点検修理してください。

本文をよく読み、警告には特に注意してください。アルファラバル純正な予備部品をご使用願います。予備のラバーシール、リップシール、ダイアグラムを常に在庫に保管してください。点検修理後はバルブの動作を確認してください。

5.9 完全保守アクチュエータ(NC/NO)に対する圧縮空気作動の変更

アクチュエータに危険警告がマークされている場合、同アクチュエータを切り開かないでください。



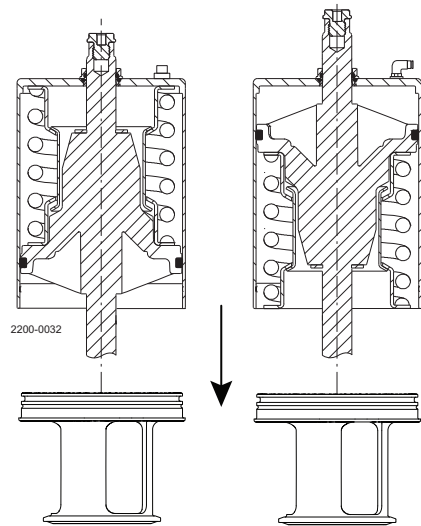
スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを解体してはいけません！



スプリング負荷不足の危険性があるから、アクチュエータを切り開いてはいけません！

解体検査する前に、当該アクチュエータに警告マーク無しことを確認してください。

1. シリンダを回転させてください。
2. ロックワイヤを外して、シリンダを引き抜いてください。
3. ピストンとスプリングアセンブリの逆転。
4. アダプタ、エア継手、プラグを反対側の端に逆に取り付けます。
5. 逆順序の再組立て(3~1)。



エアで上向きに作動

エアで下向きに作動

6 テクニカルデータ

据付け、操作、メンテナンスの際は、必ずテクニカルデータをご覧ください。
このデータは担当者にご通知ください。

6.1 テクニカルデータ

バルブは衛生的でモジュラー式設計エア圧シートバルブで、圧縮エアにより遠隔操作されます。

可動部品が少ないため、信頼性が高く、メンテナンス費用が少なくて済みます。バルブ・プラグ/ダイアフラムの一体構造によって、アセプティック動作を可能にしています。

標準デザイン

無菌の混合防止弁は異なったボディ構成できます。モジュール構造を採用し、仕様選定プログラム(CAS)を使用して柔軟かつ簡単にカスタマイズできます。

データ - バルブ / アクチュエータ	
製品液最大圧力	800 kPa (8 bar/116 psi).
使用最小圧力	真空
最高滅菌温度(蒸気 - 短時間)	圧力380 kPa(3.8 bar/55 psi)で150° C (302° F)
温度範囲	-10° C ~ + 140° C (14 ~ 284°F) (標準EPDMシール)。
エア圧、アクチュエータ	500 ~ 700 kPa (5 ~ 7 bar/72.5 ~ 101.5 psi)).
注意: アセプティック用途の場合には真空で使用しないでください。	
材質 - バルブ / アクチュエータ	
接液金属部品	1.4404 (316L)(内部Ra < 0.8 μm/32 μ)。
他金属部品	1.4301 (304).
プラグシール	EPDM.
ダイアフラム	EPDM/PTFE
その他の接液部シール	EPDM (標準)
接液シール (オプション)	HNBR.
その他のシール	NBR.

重量

サイズ	51 (2")	63.5 (2.5")	76.1 (3")
最大重量(バルブ構成による)	29 kg (64 lb)	30 (66 lb)	46 (99 lb)

騒音

バルブアクチュエータの騒音レベルは、排気口から1メートル離れて1.6メートル(3フィートおよび5フィート)上では、ノイズダンパーなしで約77db(A)、ダンパーありで約72db(A)になる-バール(101.5 psi)気圧。



アルファ・ラバルの問い合わせ先

各国の弊社代理店の最新情報は、ホームページをご確認ください。

© Alfa Laval Corporate AB

本文書および本文書の内容はAlfa Laval Corporate ABが所有し、知的所有権およびそれに関連する権利を管理する法律によって保護されています。本文書のユーザーは、適用される知的所有権関連法に準拠する責任を負います。本文書に関連するすべての権利を制限することなく、本文書のいかなる文書も、Alfa Laval Corporate ABから文書による許諾を得ることなく、いかなる形式またはいかなる手段（電子、機械的、複写、録画その他）、いかなる目的によっても無断で、コピー、複製または転送してはなりません。Alfa Laval Corporate ABは法の許す限り、刑事告発を含めた、本文書に関する権利を行使します。